



Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery,
Nara Medical University

2023年 Facebookページ投稿記事

<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnaramed/>



2023年1月1日



新年あけましておめでとうございます。

2022年から2023年にかけては任期のちょうど折り返しとなります。今年の干支は「卯」。その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれ、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われています。今年は是非、コロナ禍を抜け出し、新しい時代に新しい挑戦を考えてみたいと思います。皆様方のご多幸と益々のご発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

いつもありがとうございます。お陰様で先日、当FBサイトへの「いいね！」が1400件に到達しました。当FBサイト「いいね！」1400人目は群馬県在住のHH様、応援ありがとうございます。皆様のご期待にそえるよう頑張っ参ります。よろしくお願ひ申し上げます。

2023年1月4日

Original Research

Hearing Outcomes of a New Cartilage Conduction Device vs Bone Conduction Devices

Emily M. Nairn, AuD^{1*}, Alyssa S. Chen, BS^{2,3},
Tadashi Nishimura, MD, PhD¹, Anna Berezovsky, MD⁴,
and Emily Z. Stucken, MD¹

1 Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, Nara, Japan; **2** American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Chicago, Illinois, USA; **3** Department of Otolaryngology, Nara Medical University, Nara, Japan; **4** Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, Nara, Japan

*Correspondence: emnairn@naramed-u.ac.jp

DOI: 10.1177/0091229822112817

https://doi.org/10.1177/0091229822112817

©SAGE

Abstract

Objective. To compare audiometric outcomes of a new cartilage conduction hearing device (CCD) with traditional bone conduction hearing devices (BCDs).

Study Design. Clinical trial and crossover study design.

Setting. Tertiary academic center.

Methods. Sixteen adults (19 ears) with congenital aural atresia or overclosed ear canals who previously underwent BCD implantation were fitted with a CCD. Audiometric data were collected with use of the BCD and the CCD.

Results. The mean pretreatment 4-frequency pure tone average was 81 dB. The mean aided pure tone averages with the BCD and CCD were 27 and 32 dB ($P = .002$), and the mean functional gains were 54 and 49 dB ($P = .002$), respectively. The mean consonant-nucleus-consonant scores with the BCD were 90% (best aided) and 80% (aided ear isolated), and those with the CCD were 86% and 76%. Mean AzBio scores were 90% (quiet), 77% (+10 dB SNR [signal to noise ratio]), and 52% (+5 dB SNR) when isolating the BCD ear and 90%, 73%, and 41% when isolating the CCD ear. No difference in speech scores achieved statistical significance except the AzBio isolated to the aided ear in the +5-dB SNR condition, which favored the BCD ($P = .01$).

Conclusion. Pure tone audiometric outcomes with the BCD show a small advantage over the CCD, with the difference driven mainly by high-frequency responses. Speech outcomes were equivalent apart from the +5-dB SNR condition, which favored the BCD.

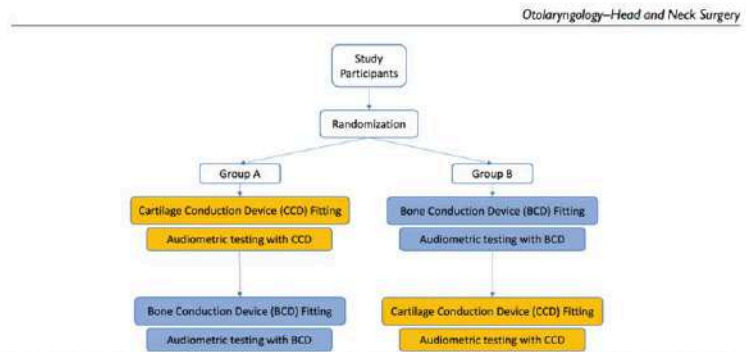


Figure 1. The study design was a crossover protocol with subjects randomized into 2 groups. Each subject trialed both bone and cartilage conduction devices and served as their own controls. Unaided audiometric testing was performed at the first visit.

Nairn et al

Table 2. Cost of Cartilage Conduction Device vs Alternate Devices in Japan.^a

	Bilateral	Unilateral
Cartilage conduction device		
Adult	4400	2590
Child	2590	1290
Baha: osseointegrated	Not offered	4010 ^b
Headband-style bone conduction device: Starkey mini digital ADHEAR	2450	1330
Adult	4520	2510
Child	3869	2140

^aValues shown in US dollars.

^bPlus surgical fees.

奈良医大発、日本発の軟骨伝導補聴器(軟骨伝導)は国内他学にとどまらず、海外では米国シガン大学と共同研究が行われ、covid-19蔓延下にもめげず試験終了・結果発表となりました。

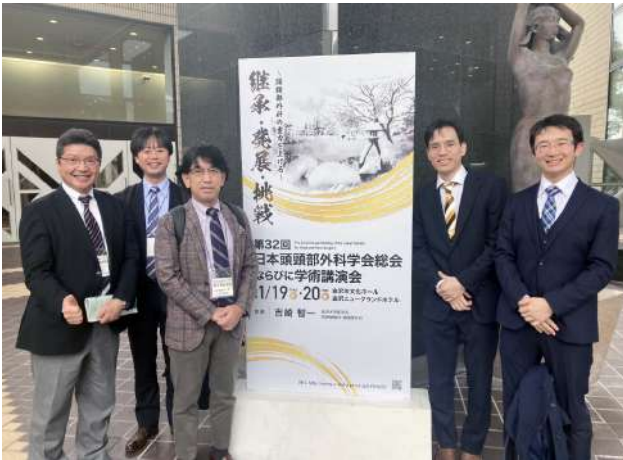
装用閾値は軟骨伝導よりBAHAの方が良好でしたが、言葉の聞き取りは静寂下/雑音負荷を含めて両者に有意差は認められませんでした。

まとめますと、軟骨伝導はBAHAに比べて、日常生活上での音の聞き取りが少し悪いものの、言葉の聞き取りに有意差はなく、手術不要で創部リスクなく安価であることを考えると、補聴の際の重要な選択肢の一つになるでしょう。

開発・試験にご協力いただいたりオン(株)に深謝いたします。



2023年1月20日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。

2023年1月19～20日にかけて、第32回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会が金沢市文化ホールおよび金沢ニューグランドホテルで、現地参加およびオンデマンド配信にて開催されました。今回は金沢大学の吉崎智一会長の「継承・発展・挑戦」というコンセプトの下、多くの先生方が現地に足を運んでいました。

当科関連からも、奈良医大から上村裕和、木村隆浩、衛藤克幸、北原、近大奈良から家根旦有、太田一郎、秋岡宏志、ベルランドから三上慎司、木村直幹の9名(敬称略)が参加発表しました。

そして本日金曜は、金沢から大和八木に移動しての新5回生1週ポリクリ年始初の総括+めまいクルズ。今週は耳硬化症、鼻副鼻腔腫瘍、下咽頭Kについて、症状から検査、診断、手術に至る過程、手術内容を勉強してもらえました。

私ども明日土曜は奈良医大耳鼻科同窓会新年会をハイブリッド開催します。皆様方におかれましてはどうぞ良い週末をお過ごしください。

2023年1月21日

第59回 敵火会新年総会・令和5年 敵火研究会 学術講演会 プログラム

【日 時】 令和5年1月21日(土) 午後4時～
【会場】 奈良ホテル新館 大和の間
【WEB配信】 ZOOMを用いたオンラインにて配信

敵火会新年総会 …… 16:30～16:45(大和の間) 総合司会 上田雅志
司会 上田雅志 北原 礼

開会の辞
新年挨拶
会報報告
幹事感謝
その他

令和5年 敵火研究会 …… 16:45～19:00(大和の間) 司会 西村忠己

(1) 講演 I 《16:45-17:05》
過剰な聴覚刺激による聴覚中枢の可塑性変化と聴覚野の機能
石田千恵 梶山 勉
メニエール病の診断と治療に関する検討
衣川博典
当科における過去10年間の耳下腺導管癌に対する治療の成績について
中道衣都子
当科における突発性難聴の臨床統計

(2) 講演 II 《17:05-17:20》
Behavioral and Immunohistochemical Evidence for Suppressive Effects of Goshajinkigan on Salicylate-Induced Tinnitus in Rats
北野公一
Role of Human Papilloma Virus and Lifestyle Factors in Overall Survival of Patients with Oropharyngeal Squamous Cell Carcinoma
西川大祐
Orthostatic hemodynamics in the vertebral artery and blood pressure in patients with orthostatic dizziness/vertigo
松村八千代

(3) 講演 III 《17:20-17:30》
若手敵火賞
A survey of feeding and swallowing function after free jejunal flap reconstruction in cases of head and neck cancer
秋岡宏志
敵火賞
Prevalence of CTX-M-9 Group Among ESBL-Producing Escherichia coli Isolated from Healthy Individuals in Japan
西井典史

敵火賞-若手敵火賞授賞式 《17:30-17:35》

(4) 講演IV 《17:35-17:50》 北原 礼
奈良県大および関連施設での現状 2014-2022

(5) 特別講演 《18:00-19:00》 <領域講演> 座 長 北原 礼

「慢性鼻副鼻腔炎の病態分類から考える最適な治療アプローチ」
東邦大学医療センター大橋病院 耳鼻咽喉科学講座 教授 吉川 衛先生
共催: ナノファイ株式会社 (敬称略)
主催: 敵火研究会



本日、第59回敵火会新年総会・令和5年敵火研究会学術講演会が奈良ホテルにてハイブリッド形式で行われました。本年度入局した4人の新入局員による初めての発表に続き、3人の学位取得者による記念講演が行われました。本年度の若手敵火賞は近畿大学奈良病院の秋岡先生に、敵火賞は本学梶井講師に授与されました。

特別講演には、東邦大学医療センター大橋病院耳鼻咽喉科学講座の吉川衛教授をお招きし、『慢性鼻副鼻腔炎の病態分類から考える最適な治療アプローチ』につきご講演いただきました。

2023年1月22日

Zoom ミーティング



4, 患者へ実態調査

Google formにてヒアリング（アンケート調査）

倫理委員会書類作成中（京都大学 単一施設での研究） **全国 各施設での協力をお願いします**

◆ 京都大学VHL病センター約60人

◆ 患者会 **ほっとChain**
VHL Chain-ヒアリング-アンケート調査委員会
事務局京大眼科 119家族

「VHL病患者さんの実際の状況を把握するための研究をしていますので、協力をお願いします」と説明とQRコード付きの紙を1枚渡してください

- ・メールアドレス
- ・ニックネーム
- ・性別
- ・年齢
- ・都道府県

*同意はフォーム内で取得
*個人名は収集しない

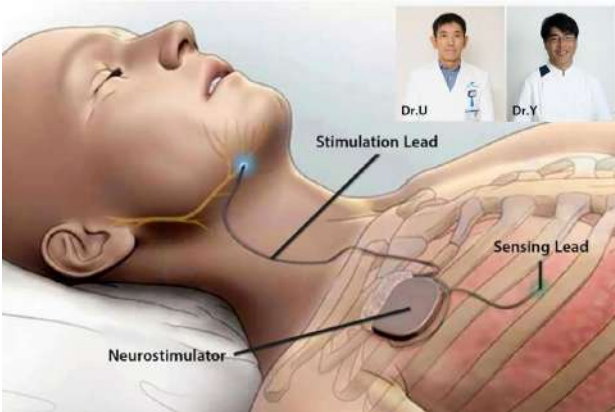
昨年5月に引き続き、本日第2回von Hippel Lindau病(VHL)班会議がWEB開催されました。多彩な内分泌異常を生じる遺伝性疾患VHLの実態把握と診療標準化のため、京都大学眼科の辻川明孝先生、高橋綾子先生を中心に、厚労科研の難治性疾患政策研究事業として進められています。

耳鼻咽喉科としては内リンパ嚢腫瘍という比較的まれな疾患を対象とし、神戸市立医療センター中央市民病院の山本典生先生とともに参加しています。日耳鼻とも連携しつつ、まずは「診療の手引き」と「重症度分類」を作成し、難病指定を最終目標としています。

VHLは日耳鼻・専門医試験にも出題されています。聞き慣れない疾患とお感じの先生方、一度関連HPにアクセスしてご確認ください。メニエール病だと思ってfollowしている患者さんの中に隠れている可能性がありますので。



2023年1月27日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は新5回生1週ポリクリの総括でした。今週は難聴と耳漏を主訴とした真珠腫性中耳炎、頸部腫瘤を主訴とした甲状腺腫瘍に加え、睡眠時無呼吸に対する薬物睡眠下内視鏡検査を手術場で行い、それぞれの症例をしっかりとレポートしてもらいました。

睡眠時無呼吸への新規治療法である「植込み型舌下神経電気刺激療法」に関して。昨年11月に、西日本第一例目が奈良医大附属病院で施行されました。さらに現在、当院第二例目をプランニングしています。

「植込み型舌下神経電気刺激療法」は、片側の舌下神経を睡眠中にのみ直接刺激し、舌を前方に移動させることで上気道が閉じるのを防ぐ治療法です。CPAPをうまく使用できない症例に対しての新規治療として、2014年に米国FDAで承認され、既に2万人を越える症例に導入されている治療法です。日本でも2021年から健康保険の適用対象となりました。

奈良医大附属病院では、呼吸器学会指導医と睡眠学会専門医の資格を有する呼吸器内科医(Dr.Y)が症例背景や睡眠検査を詳細に評価し、その後外科マスター資格を有する耳鼻咽喉・頭頸部外科医(Dr.U)が植込み術を丁寧に実施します。本治療法をそれぞれの領域の専門医師が協働して行う施設は、奈良医大附属病院が日本初であり、本治療法の効果を最大限に発揮するために極めて重要なポイントと考えます。



2023年2月3日



市民講座&健康相談

14:30-15:30 めまい市民講座

病院で「原因不明」「異常なし」と言われためまい患者さんに聞いて欲しい話

15:30-16:30 めまい健康相談

講師自身が時間の許す限り対応させていただきます

奈良県立医科大学
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授
めまいセンター センター長
北原 乳

耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は新5年生1週ポリクリの総括でした。今週は真珠腫性中耳炎と中咽頭Kに関して、それぞれの症例を2名2組に別れ、しっかりレポートしてくれました。従来ゴ口合わせで、3月3日は耳の日、8月7日は鼻の日として市民公開講座などのイベントが各地で行われていました。最近では耳鼻科の正式名称である「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」にちなんで、3月を「耳鼻咽喉科月間」、7月を「頭頸部外科月間」として、それぞれの領域に関してその内容を市民によ

く理解してもらうためのイベントが開催されるようになりました。

奈良県でも、3月には何科に行けば良いのか迷う「めまい」に焦点を当て「めまいは耳鼻咽喉科が診ます」、8月には「口腔がん」で苦しむ方を少しでも減らそうとする検診企画に焦点を当て「口腔がん無料検診の取り組み」について、県民/市民の方々にわかりやすく解説、アドバイスしたいと思います。

2023年2月10日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は新5回生1週ポリクリの総括でした。今週は真珠腫性中耳炎の症例2例、鼻副鼻腔腫瘍、副甲状腺腫瘍を受け持ち、しっかりレポートしてくれました。残り時間は例によってめまい救急トリアージ。

誠に名誉な事ですが、今年から2月と6月にそれぞれ熊本大学と近畿大学で、めまいに関する学生講義を担当させていただきます。受診されためまい患者さんが不利益を被らないような、めまい診療における各科役割分担をお話ししていきたいと思ます。

先月放映されたNHK「もう“めまい”に悩まない!耳の迷宮SP」が、来週2月16日木曜1510-1600に再放送されます。BPPV、メニエール病、vHITというトピックスを軸にめまいのメカニズムをわかりやく解説した内容であったと、多方面からご評価をいただいております。ご参考まで。

本日は雨模様ですが土日にかけて快方に向かうようです。元気にお過ごしください。



2023年2月12日



晴天のもと2023年2月11日～12日の2日間、大阪公立大学杉本キャンパスで「第9回 日本小児診療多職種研究会」が開催されています。科や職種を超えた演題が集まる賑やかな研究会です。当科から森本助教が多職種で行っている難聴聞きこえとことばの勉強会について発表を行い座長も務めました。

奈良県からは関連病院の高井病院からAPDの報告、近畿大学奈良病院から構音障害の発表がありました。様々な分野での多職種連携の重要性が再確認できました。

ご開催いただきました会頭の大阪公立大学大学院耳鼻咽喉病態学教室の阪本浩一先生はじめ、スタッフの皆様に感謝申し上げます。



2023年2月16日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。明日は出張不在なので、本日木曜に新5回生1週ポリクリの総括をさせていただきます。今週は複数の耳小骨奇形を有する伝音難聴再建症例、細胞診後の頸部リンパ節生検症例、甲状腺腫瘍の摘出術症例を受け持ち、術後経過も含めてしっかりレポートしてくれました。残り時間は例によってめまい救急トリアージ。本日はちょうどポリクリの時間帯にNHK「もう“めまい”に悩まない！耳の迷宮SP」が再放送されましたので、奈良医大めまいセンターを取り上げた番組をライブ鑑賞しながらのめまい講義という、なかなか経験できないポリクリになりました。

2023年2月24日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日は金曜恒例の新5回生1週ポリクリ総括でした。天皇誕生日と土曜日に挟まれた気合いを入れにくい金曜日でしたが、中耳真珠腫、耳下腺腫瘍、甲状腺腫瘍、喉頭腫瘍といった耳から耳下部、頸部、喉頭にかけての良性/悪性の腫瘍症例をしっかりとまとめてくれました。

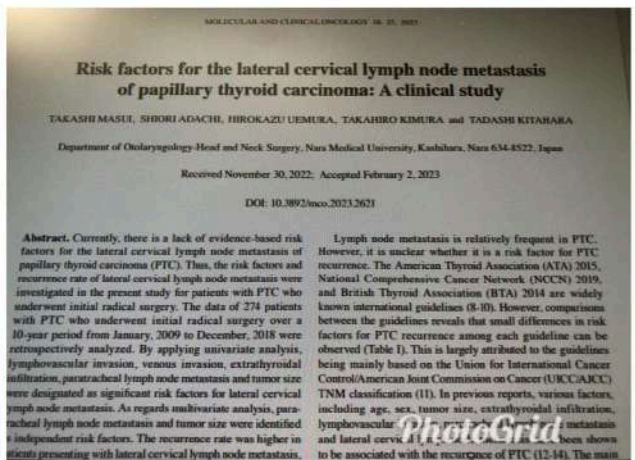
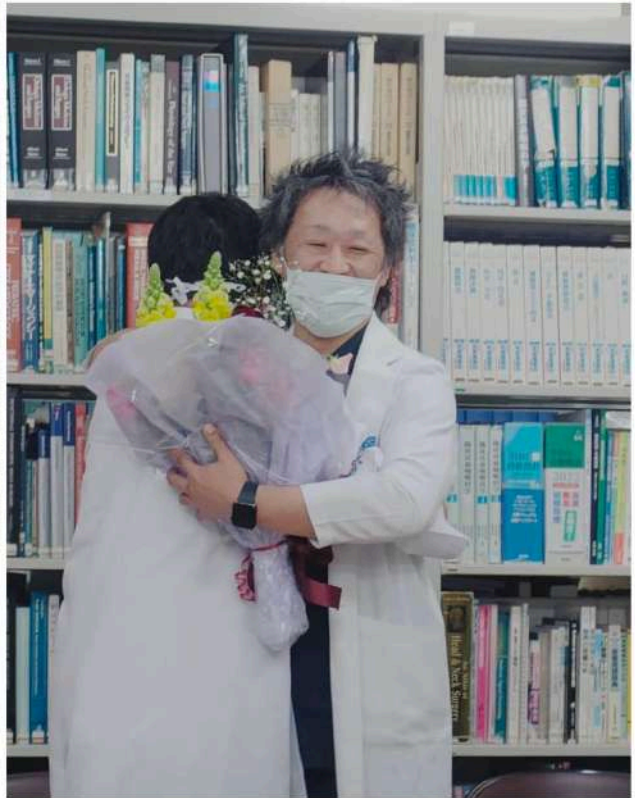
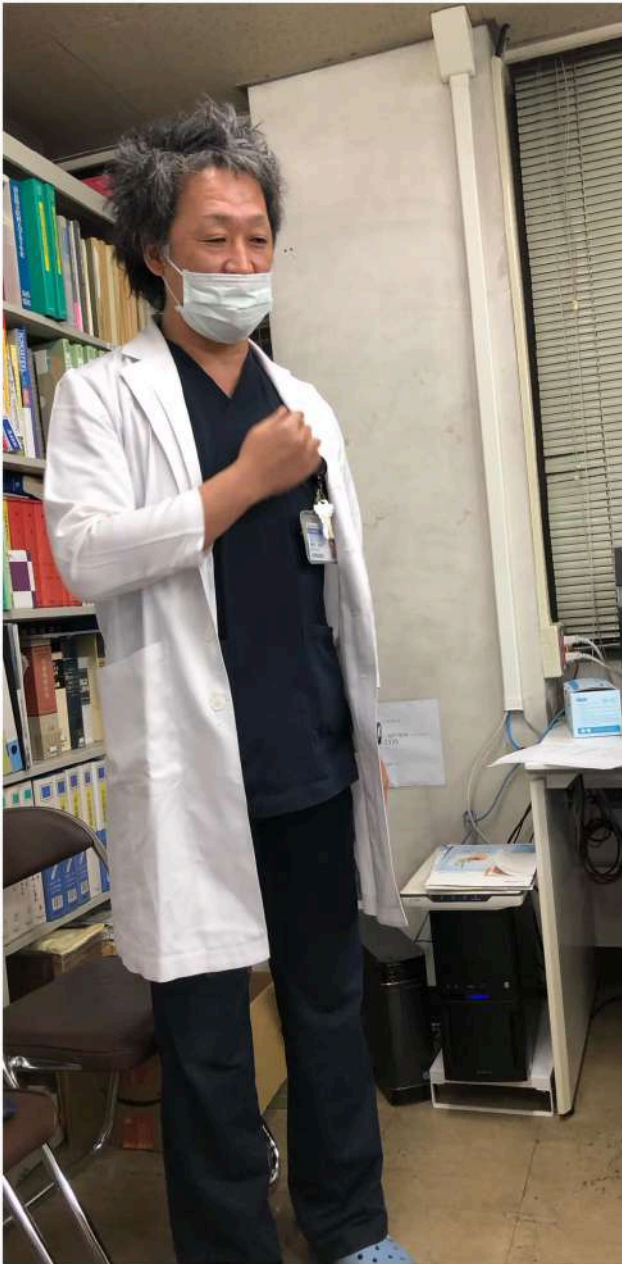
2月も残りわずか今年度もあと1ヶ月。各科とも再来年度のリクルートを見据えて専門研修PGの充実化を考えるべき時期になります。日耳鼻が行った今年度に耳鼻咽喉科専攻を決めた研修医に対するアンケート調査で耳鼻咽喉科を選択した最大の理由：①多種多様な手術手技、②内科と外科の両分野に関わる、③専門領域が多彩、④将来幅広い選択肢、⑤感覚器に興味あり。これら5つの理由は私が研修医係をしていた約20年前から変わっていない内容です。

少なくとも聞く耳を持つキャパのある学生/研修医に、これら5つの理由が持つ重要な意味を伝えられるか、どれだけ共感させられるか、なのだと思いますが難しい。

明日、明後日と良い週末をお過ごしください。



2023年3月1日



2月28日をもって、榊井貴史先生が近畿大学奈良病院に異動されました。榊井先生には頭頸部癌専門医として、奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科の臨床・研究を前進させていただきました。
榊井先生の大学での最後の論文は、甲状腺乳頭癌が頸部外側区域リンパ節転移を起こす危険因子について検討した論文になりました。

2023年3月3日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。金曜恒例の新5回生1週ポリクリ総括。真珠腫性中耳炎、声帯ポリープ、下咽頭腫瘍、甲状腺腫瘍と様々な疾患症例の診断、治療、経過をしっかりとめてもらいました。本日は3月3日は「耳の日」。耳の病気を耳鼻科が診るのは当たり前。しかし耳の病気に「めまい」が入ってくると話がややこしい。

あるめまい疾患統計の例を挙げると、救急部の「めまい」は10%が脳血管系めまいで70%が内耳性めまい。耳鼻科めまい専門外来の「めまい」は脳血管系めまいは1%で内耳性めまいは70%。どう転んでも、トリアージした後の「めまい」は耳鼻科に回って来て当然の数字ですし、合理的に思います。

私が研修医の頃、何でこんな訳わからん「めまい」を耳鼻科に送ってくるんだと息巻いている先輩方が大勢いました。外来レベルでの問診と検査だけでは原因がわからない「めまい」が多いので、当時の先輩方が息巻く理由もわかります。

当めまいセンターでは、全国から紹介いただいた原因不明のめまいの原因は50%がBPPVであることを報告しました。つまり昔、息巻いていた先輩方の診た訳わからん「めまい」の半分はBPPVという耳鼻科疾患であったと考えると、それがわかる時代になったことに医療の進歩を感じます。

しかし原因不明のめまいの50%がBPPVで、25%が自律神経、あとPPPDも非常に厄介です。各施設、医師のため患者のためにも、自律神経を何科が診るのか、PPPDを何科が診るのか、決めておくべきです。勿論、すべて耳鼻科めまい専門外来が診ると宣言すれば耳鼻科のプレゼンスが増強するでしょう。脳神経内科、精神神経科にお願いするのも勿論、ありだと思います。それを決めておかないのが精神衛生上悪いのだと思います。

本日は3月3日は「ひな祭り」。素敵な週末お過ごしください。

参考：耳鼻臨床「研修ノート」115：3：256-257, 2022.



2023年3月6日



本日より令和5年度の臨床統合講義が始まりました。初日は北原による『耳鼻咽喉科総論』『耳鼻咽喉科とめまい平衡医学』に引き続き、大阪ボイスセンターからお越しいただいた望月隆一非常勤講師による『耳鼻咽喉科と音声言語医学』の3限連続の対面講義となりました。

講義はPDF、YouTubeで復習できます。循環器や消化器も良いけど、めまいや音声というニッチな領域も是非エンジョイしてください。



2023年3月10日



第35回日本喉頭科学会が京都府立医科大学・平野 滋会長の下、ホテルオークラ京都で開催されました。学会テーマは「Sustainable Challenge」、未説明・未解決な分野への弛まない挑戦を続けよう、として喉頭科学の専門家が集いました。

当科関連から頭頸部外科マスター・上村裕和病院教授、大阪ボイスセンター・望月隆一統括院長/センター長、蓮川昭仁先生が参加発表しました。

2023年3月10日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は恒例の新5回生1週ポリクリ総括でした。耳硬化症他院術後再手術、鼻副鼻腔腫瘍摘出術、甲状腺腫瘍摘出術、舌下神経刺激装置植込術。今週は一筋縄ではいかない手術治療症例が多く、各症例の診断から治療に至るプロセスをしっかりとめてくれました。

昨日からWBCが開幕しています。侍JAPANはあまりにも役者揃いなので、逆に結果を不安視していましたが、滑り出しは好調。

確かWBC監督の栗山英樹さんは、ヤクルト・スワローズの現役選手時代にメニエール病を患っていて、その影響もあって早々に引退されたと記憶しています。しかしTV放映される画面から、どちらかの耳が難聴そうには見えません。ちまたには、メニエール病と診断されているBPPV患者さんがたくさんいらっしゃいます。自身がメニエール病であると公表されている著名人、相田翔子さん、今井翼さん、久保田利伸さん、鳥越俊太郎さん、ハイヒールモモコさん、misonoさん、八代亜紀さん。果たして、このうち何人が本当のメニエール病なのでしょう。

今晚のWBC韓国戦は厳しい試合展開になると予想します。皆様、良い週末をお迎えください。そして週明けからのマスク、どうしますか？

2023年3月17日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は新5回生1週ポリクリの総括でした。今週は当科各分野の外科治療として、人工内耳埋込術、内視鏡下鼻副鼻腔開放術、アデノイド切除術、内視鏡下咽頭粘膜切除術、それぞれの症例をしっかりとレポートしてもらいました。

年度末は大学院生にとって卒業と学位授与の季節です。このたび、塩崎智之先生が理学療法士による前庭リハビリテーションに関する”Effects of vestibular rehabilitation on physical activity and subjective dizziness in patients with chronic peripheral vestibular disorders: A six-month randomized trial. *Front Neurol* 12: e656157, 2021”で、尾崎大輔先生が前庭感覚上皮再生に関する”Culture of organoids with vestibular cell-derived factors promotes differentiation of embryonic stem cells into inner ear vestibular hair cells. *J Biosci Bioeng* 135: 143-150, 2023”で、それぞれ立派に学位授与されました。さらなる高みを目指して頑張ってください。



2023年3月24日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は新5回生の1週ポリクリ総括。今週はそれぞれ睡眠時無呼吸症、IgA腎症に対する口蓋扁桃摘出術をレポートしてもらいました。今年度の最終班で来週から春休みになります。

大いに盛り上がったWBCも侍JAPANの優勝で幕を閉じました。医大中庭の桜もほぼ満開。雨模様だったのが残念ですが。今年度から来年度への区切りの日々です。それぞれの新年度に向けて有意義な週末をお過ごしください。

2023年3月31日



本日は年度末。長きにわたり臨床検査技師としてめまい難聴センターをサポートして下さった高田真純さんが退職されることになりました。心より御礼申し上げます。高田さんのご協力のお陰で、原因不明のめまいの原因を一週間で究明する『めまい検査短期入院システム』が、奈良医大に確立されました。医師、看護師、言語聴覚士、臨床検査技師、理学療法士がそれぞれのプロフェッショナルを遂行して成り立つ、めまい検査から前庭リハビリテーションまでの一連の流れが、このたびNHKワールドで世界160カ国に放映されることになりました。奈良から日本、そして世界に向けて発信することを目標に頑張って来た成果の一端が、とりあえず実現したことになるうかと思えます。さらなる高みを目指し、邁進して参ります。



2023年4月14日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は今年度初の5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。総括内容は、当科の外科手技である鼓膜形成、耳小骨連鎖再建、内視鏡下鼻副鼻腔開放、上顎洞嚢胞摘出、内視鏡下下咽頭K切除の見学と、それぞれの症例の診断と治療をしっかりとレポートしてもらいました。今週はNHKワールドのディレクターとカメラマンが奈良医大めまいセンターの取り組みを取材してくれていて、来月いよいよ世界160カ国に向けて放映されます。番組では医大生へのめまい教育にもフォーカスを当ててくれます。日本に興味を持つ外国人向け番組ですので、放映後の外来混乱は無いものと考えます。



2023年4月15日



第95回奈良県耳鼻咽喉科講習会プログラム

司会 近畿大学医学部奈良病院 家根 旦有
開会の辞 日耳鼻奈良県地方部会 会長 奈良県立医科大学 北原 紘
情報提供 (16:00~16:10)
座長 天理よろづ相談所病院 岡上 雄介
アレルギー性疾患治療剤「ルパフィン錠」について
田辺三菱製薬株式会社

一般演題 (16:10~16:30)

I. 甲状腺片葉切除における術後甲状腺機能への影響
天理よろづ相談所病院 高田 晋明

II. 当科で加療した鼓室型グロムス症例
奈良県総合医療センター 堀中 昭良

特別講演 (17:40~18:40) 〈領域講習〉
座長 奈良県立医科大学 北原 紘

**「アレルギー疾患と鼻・喉頭疾患
-私の治療方針-」**

**鹿児島大学大学院
耳鼻咽喉科 頭頸部外科学**

教授 山下 勝 先生

PhotoGrid

令和四年度奈良県耳鼻咽喉科三部会合同総会ならびに第95回奈良県耳鼻咽喉科講習会が橿原市のミグランス4Fコンベンションルームで開催されました。

特別講演には鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科頭頸部外科学教授の山下 勝先生をお招きし、『アレルギー疾患と鼻・喉頭疾患-私の治療方針-』につき、たくさんの写真と動画を混じえて非常にわかりやすく解説いただきました。

2023年4月19日



Original Article
Relationship between stress levels and endolymphatic space volume in Meniere's disease
Hiroto Fujita, Keita Ueda, Hajime Kageyama, Tomoyuki Shiozaki, Hiroshi Inui, Tadashi Kitahara

ARTICLE INFO
Abstract
Objectives: Since the first report by Hallpike and Yamakawa in 1938, many more patients with Meniere's disease (MD) with endolymphatic hydrops (EHL) have been described. Mental/physical stress and a subsequent increase in the release of the anti-diuretic hormone (ADH) supposedly triggers MD. In the present study, to assess the relationship between stress and EHL, we conducted a series of stress-related questionnaires as well as a 3D endolymphatic space (ELS) analysis in patients with unilateral MD.
Methods: We enrolled 76 patients with unilateral MD (uMD) as the active group and 75 patients with unilateral benign paroxysmal positional vertigo (bPPV) as the control group; both underwent examinations between June 2014 and November 2019. All patients underwent 3-T magnetic resonance imaging (MRI) 4 h after intravenous gadolinium injection. We used the total fluid space (TFS), ELS, and ELS rate (ELS/TFS x 100), which is the percentage of the volume of the ELS relative to that of the TFS, for a precise evaluation of the ELS and EHL in MD. Stress was evaluated using the Self-Rating Depression Scale (SDS), the psychological Stress Response Scale (SRS), and the modified Diagnostics Handicap Inventory (mDHI). Stress scores and blood ADH levels were compared across patient groups.
Results: In patients with uMD, ELS rates significantly correlated with SRS scores on both the affected and the healthy side and with mDHI scores on the affected side. The SDS and ADH showed no significant correlation with the ELS rates. Correlations were much stronger in the group with severe SDS and one with low ADH levels.
Conclusions: The present results indicate that stress may be involved in EHL development in uMD not only in the ipsilateral but also the contralateral ear. They also suggest that patients with neuropsychiatric syndromes may develop EHL and MD in response to a stressful lifestyle.
© 2023 Japanese Society of Otorhinolaryngology and Head and Neck Surgery, Inc. Published by Elsevier B.V. All rights reserved.

Table 1. Relationships between ELS rates derived from inner ear SRS angles and stress levels determined through questionnaires/questionnaires.

Table with columns for affected side (whole, cochlea, vestibule, SCCs) and healthy side (whole, cochlea, vestibule, SCCs). Rows include SRS (Depression, Anxiety, Irritability, Anger, Helplessness), mDHI (F1, F2, F3, F4, F5), and ADH.

The correlation coefficients between SRS total scores and ELS rates on the affected side were 0.23 (p = 0.04) in the cochlea and 0.25 (p = 0.04) in the SCCs, and on the healthy side they were 0.23 (p = 0.04) in the whole inner ear and 0.28 (p = 0.01) in the cochlea, indicating a significant correlation. The correlation coefficients between SRS depression-anxiety scores and ELS rates on the affected side were 0.24 (p = 0.04) in the whole inner ear, 0.24 (p = 0.04) in the cochlea, and 0.29 (p = 0.01) in the SCCs. Likewise indicating a significant difference, the correlation coefficients between mDHI scores and vestibular ELS rates on the affected side were also significant: 0.26 (p = 0.02) in F1, 0.27 (p = 0.02) in F2, 0.30 (p = 0.01) in F4, and 0.27 (p = 0.02) in F5. Correlations between blood ADH levels and ELS rates showed no statistical significance (p > 0.05) on either side.



Original Article
Evaluation of changes in endolymphatic hydrops volume after medical treatments for Meniere's disease using 3D magnetic resonance imaging
Akinoi Yamashita, Tadashi Kitahara, Masaharu Sakagami, Keita Ueda, Hiroto Fujita, Hiroshi Inui

ACTA OTO-LARYNGOLOGICA
https://doi.org/10.1080/00016489.2023.195882

RESEARCH ARTICLE

Evaluation of changes in endolymphatic volume after middle ear pressure therapy for intractable meniere's disease using 3D magnetic resonance imaging

Tadashi Kitahara, Masaharu Sakagami, Hiroshi Inui and Hiroaki Irino

Department of Otolaryngology- Head and Neck Surgery, Nara Medical University, Kashihara, Nara, Japan; Inui ENT Clinic, Sakurai, Nara, Japan; Irino Vertigo/Dizziness Clinic, Naniwa, Osaka, Japan

ABSTRACT
Background: Nowadays, the endolymphatic space size can be evaluated by 3D-analysis of 3T-MRI after intravenous injection of gadolinium enhancement.
Aims/objectives: In the present study, to elucidate the relationships between vertigo and endolymphatic hydrops (EH) volume after middle ear pressure therapy (MEPT), we investigated changes in EH volume after MEPT for intractable Meniere's disease (MD) by means of the inner ear MRI (ieMRI) in relation to clinical results.
Materials and methods: We enrolled 202 successive definite MD cases with intractable vertiginous symptoms from 2015 to 2020, assigning Group-I of MEPT, and Group-II of endolymphatic sac drainage (ELSD). Ninety patients completed the planned 2-year follow-up, which included assessment of vertigo frequency and changes in EH volume using ieMRI (Group-I/MEPT: n = 40; Group-II/ELSD: n = 50).
Results: Two years after surgery, vertigo was completely controlled in 77.5% of patients in Group-I and 90.0% in Group-II. Hearing improved by >10dB in 7.5% of patients in Group-I and 24.0% in Group-II. ELS rates were significantly reduced after treatments of Group-I and Group-II only in the vestibule.
Conclusions: The obtained results indicate that MEPT as well as ELSD could be a good treatment option for patients with intractable MD.

ARTICLE HISTORY
Received 23 February 2023
Revised 19 March 2023
Accepted 13 March 2023

KEYWORDS
Meniere's disease; endolymphatic hydrops; middle ear pressure therapy; endolymphatic sac drainage surgery; inner ear MRI

2023年に入り内耳造影MRIによる内リンパ腔体積定量から論文3編が受理されました。下段2編はメニエール病に対する投薬治療、中耳加圧治療、内リンパ嚢開放術の前後における内リンパ腔体積と治療成績の羅列にとどまりますが、上段はメニエール病における内リンパ腔体積とストレススコアとの相関を証明しており興味深い結果です。ちなみに、BPPVにおける内リンパ腔体積とストレススコアとの間に相関は認められませんでした。これらの業績は放射線科のご協力があったのもであり、名古屋大学の長縄先生、田岡先生、奈良県立医科大学の吉川先生、田中先生、宮坂先生に深謝いたします。内リンパ腔体積の定量解析に関しましては、PixSpaceのAttractiveを使用しております。

https://www.pixspace.co.jp/



2023年4月21日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。今週の総括内容は、真珠腫性中耳炎に対する鼓室形成術、アブミ骨固着に対するアブミ骨手術、副鼻腔真菌症に対する内視鏡下鼻副鼻腔開放術、鼻腔乳頭腫に対する内視鏡下鼻腔腫瘍切除術の検査、診断、治療をしっかりレポートしてくれました。耳と鼻の良性疾患のみで、悪性腫瘍なしのかなり珍しい週でした。週末は今日より気温は上がりず、季節先取りの暑さは落ち着くお出かけ日和とのこと。素敵な週末をお過ごしください。



2023年4月26日



衣食住に関わる情報チャンネル「元気の学校」の鳥内浩一様のご指名により「めまい」市民講座を担当させていただきました。超高齢社会を迎えるにあたり原因不明のめまいをゼロにしたいと考えています。原因がわかれば治療の道は開けます。

「あなたのめまいに病名は付いてますか？」

本日先程、下記URLから公開されています。

<https://youtu.be/xOvGPXJugD0>



2023年4月28日



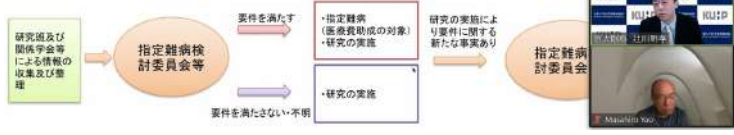
耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスでした。今週の総括内容として、真珠腫性中耳炎に関してはStage分類と手術成績について、下咽頭Kに関しては光免疫療法を含む昨今の治療選択肢について、喉頭乳頭腫に関してはHPVを介した発生機序について、甲状腺Kプラス左顎下部腫瘍に関しては摘出プラス郭清のプランニングについて、しっかりレポートしてくれました。週末からGW前半ですが、天気はあまりよろしくないようです。安心安全に過ごしつつ、GW明け新型コロナナ5類引き下げの日を迎えましょう。

2023年5月7日



指定難病の検討の進め方(原則) 平成27年1月23日
第6回指定難病検討委員会
資料より抜粋

1. 指定難病の検討に当たって、難病に関する基礎的な情報を、厚生労働科学研究費補助金事業における研究班及び関係学会で収集、整理する。
2. 指定難病検討委員会において、これまでに研究班及び関係学会が整理した情報を基に、医学的見地より、個々の疾病について、指定難病の各要件を満たすかどうかの検討を行う。
※ 指定難病とされるためには、「発病の機構が明らかでない」、「治療方法が確立していない」、「長期の療養を要する」、「患者数が人口の0.1%程度に達しない」、「客観的な診断基準等が確立している」の5要件を満たすこと。
3. 指定難病検討委員会の検討の結果を、厚生科学審議会疾病対策部会に報告する。
4. 疾病対策部会において、指定難病について審議を行い、具体的な病名などを決定する。
※1 参考人として患者の立場を代表する者が出席する。
※2 疾病対策部会の議決をもって厚生科学審議会の決定となる。
5. 厚生労働大臣が指定難病を指定する。
6. 厚生労働大臣による指定後も、研究を継続し、指定難病の各要件の評価に影響を及ぼすような新事実が明らかとなった場合には、指定難病検討委員会において見直しを行う。



2022年5月、2023年1月に引き続き、本日第3回von Hippel Lindau病(VHL)班会議がWEB開催されました。多彩な内分泌異常を生じる遺伝性疾患VHLの実態把握と診療標準化のため、京都大学眼科の辻川明孝先生、高橋綾子先生を中心に、厚労科研の難治性疾患政策研究事業として進められています。

耳鼻咽喉科としては内リンパ嚢腫瘍という比較的まれな疾患を対象とし、神戸市立医療センター・山本典生先生、京都大学・十名洋介先生とともに参加しています。日耳鼻とも連携しつつ、まずは「診療の手引き」と「重症度分類」を作成しつつ、最終的には指定難病に指定されることを目指します。



2023年5月8日



Reviewing Kampo medicine (Traditional Japanese Herbal Medicine) for otology/neurotology diseases

Tadao Okayasu ^{1,*,} Kazuo Mitani ^{2,3,} Tadashi Kitahara ⁴

¹Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, 840 Shijo-cho, Kashihara-city, Nara, 634-8522, Japan

²Hamato Kampo Medical Pharmaceutical Center, Nara Medical University, 840 Shijo-cho, Kashihara-city, Nara 634-8522, Japan

³Mitsui Family Clinic, 4-354-1 Prinsu Otou 1F, Otteribiquashi-cho, Saitai-city, Osaka, 593-8524, Japan

ARTICLE INFO

Article history:
Received 13 January 2023
Accepted 17 April 2023
Available online xxx

Keywords:
Kampo medicine
Traditional herbal medicine
Hearing loss
Tinnitus
Dizziness
otology/neurotology disease

ABSTRACT

Kampo medicine, a traditional Japanese herbal medicine, is used for the treatment of otologic and neurotologic diseases in Japan and other Asian countries. However, only Japanese medical doctors can prescribe both Kampo and modern (Western) medicine. Since a medical doctor can perform not only the diagnosis but also Kampo treatment, it is expected that the quality of clinical studies on traditional herbal medicine is higher in Japan than that in other countries. However, there is no Kampo review written in English language for the treatment of otology/neurotology diseases. Herein, we would like to demonstrate evidence of Kampo treatment for otology/neurotology diseases according to previous studies in Japan.

© 2023 Japanese Society of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Inc. Published by Elsevier B.V.



Article

Behavioral and Immunohistochemical Evidence for Suppressive Effects of Goshajinkigan on Salicylate-Induced Tinnitus in Rats

Koichi Kitano ^{1,2,3,} Akinori Yamashita ^{1,} Taketoshi Sugimura ^{2,} Tadao Okayasu ^{1,3,} Masaharu Sakagami ^{1,} Daisuke Osaki ^{2,} Tadashi Kitahara ^{2,4} and Yasuhiko Saito ^{2,4,*}

¹ Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, 840 Shijo-cho, Kashihara 634-8521, Nara, Japan, k.kitano@naramed-u.ac.jp (K.K.), akinori@naramed-u.ac.jp (A.Y.),

tokayasu@naramed-u.ac.jp (T.O.), m.sakagami@naramed-u.ac.jp (M.S.), dosaki@naramed-u.ac.jp (D.O.),

² Department of Neurophysiology, Nara Medical University, 840 Shijo-cho, Kashihara 634-8521, Nara, Japan, sugimura@naramed-u.ac.jp

³ Correspondence: kitahara@naramed-u.ac.jp (T.K.), tyasai@naramed-u.ac.jp (Y.S.); Tel.: +81-744-25-3003 (T.K.); +81-744-29-8827 (Y.S.)

Abstract: Many people are affected by tinnitus, a sensation of ringing in the ear despite the absence of external sound. Goshajinkigan (GJG) is one of the formulations of Japanese traditional herbal medicine and is prescribed for the palliative treatment of patients with tinnitus. Although GJG is clinically effective in these patients, its behavioral effects and the underlying neuroanatomical substrate have not been modeled in animals. We modeled tinnitus using salicylate-treated rats, demonstrated the effectiveness of GJG on tinnitus, and examined the underlying neuronal substrate with c-Fos expression. Intraperitoneal injection of sodium salicylate (400 mg/kg) into rats for three consecutive days significantly increased false-positive scores, which were used to assess tinnitus behavior. When GJG was orally administered one hour after each salicylate injection, the increase in tinnitus behavior was suppressed. The analysis of c-Fos expression in auditory-related brain areas revealed that GJG significantly reduced the salicylate-induced increase in the number of c-Fos-expressing cells in the auditory cortex, inferior colliculus, and dorsal cochlear nucleus. These results suggest a suppressive effect of GJG on salicylate-induced tinnitus in animal models.

Keywords: tinnitus; salicylate; animal model; Kampo; goshajinkigan; c-Fos; rat



Citation: Kitano, K.; Yamashita, A.; Sugimura, T.; Okamoto, T.; Sakagami, M.; Osaki, D.; Kitahara, T.; Saito, Y. Behavioral and Immunohistochemical Evidence for Suppressive Effects of Goshajinkigan on Salicylate-Induced Tinnitus in Rats. *Brain Sci.* **2023**, *13*, 587. <https://doi.org/10.3390/brain13060587>

Kampo Medicineは5世紀中頃に朝鮮半島から、7世紀に入ると中国からも大和地方(現在の奈良県)に伝わるようになり、20世紀に入るまで日本の医薬品の中心的存在でした。

このような歴史的背景をモチベーションとして、当科では岡安 唯助教を中心にKampo Medicineのエビデンス確立を目指し、臨床研究、基礎研究を進めています。また、漢方認定医、漢方専門医の育成にも力を入れています。



2023年5月12日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。今週の総括は、真珠腫性中耳炎と舌Kに焦点を絞り、診断・手術・術後フォローを勉強してもらいました。そろそろ、この学年も選択科ポリクリの振り分けが行われるようです。是非、耳鼻科を選んでいただき、実際の患者さんに接していただき、興味を持っていただければ幸いです。

いよいよ、来週は日耳鼻総会が福岡で現地開催されます。お互いが久々に直接お目にかかる機会として楽しみです。関西は明日から雨模様。体調を整える週末としたいところです。良い週末をお過ごしください。



2023年5月18日



奈良県立医大耳鼻咽喉・頭頸部外科の山下です。

現在、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会が福岡で開催中で、北原教授、上村・西村病院教授が不在となったため、居残り組の山下が1日早く木曜日ですが、一週ポリクリの総括をさせていただきました。

各々の症例につきしっかりテーマに沿ってまとめていただきました。

昨日から奈良も気温が急に上昇していましたが、雨の匂いとともに今晚からは少し落ち着くようです。

みなさんも体調に気をつけて金曜日、週末をお過ごしください。

2023年5月20日



頭頸部悪性腫瘍全般

遠隔転移をきたした頭頸部扁平上皮癌症例の予後因子の検討

P-127

奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科
石田千恵, 西村在, 上村裕和, 木村隆浩, 北原紀

背景・目的

- ・遠隔転移をきたした頭頸部扁平上皮癌症例の治療は、難渋することが多い。
- ・遠隔転移部位は肺が最も多く、肺転移制御が予後改善の鍵となる。
- ・肺転移を中心に、遠隔転移をきたした頭頸部扁平上皮癌症例の予後因子について検討した。

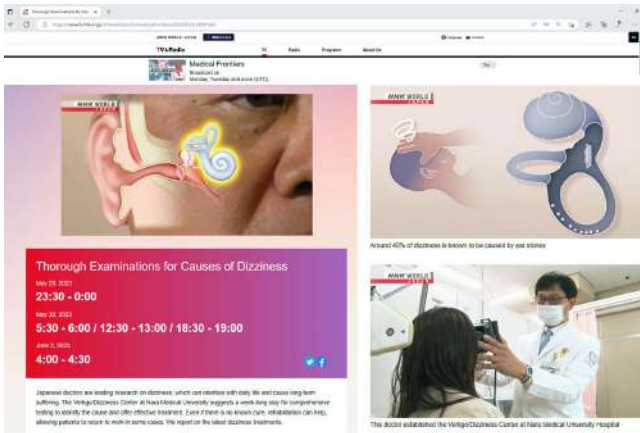
対象・方法		結果
期間：2006年1月1日～2020年12月31日		患者背景 (n = 59)
		年齢 中央値 (範囲)
		69 (38-84)

第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会が九州大学・中川尚志会長の下、福岡で現地開催されました。医局・同門の皆様へ厚く御礼申し上げます。

奈良医大からは、近大奈良、奈良総合、市立奈良、ベルランドを含め、多くの演題を発表させていただきました。特に今回は石田千恵先生のデビュー戦。しっかり質疑応答できました。



2023年5月26日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は5
回生1週ポリクリ総括+めまいクルズ。今週の総
括は、人工内耳と甲状腺腫瘍の2症例をそれぞれ2
名で担当し、診断・手術・術後フォローをしっかり
勉強してもらいました。

NHKワールド: Medical Frontiersから、週明け5月
29日月曜23:30~(30分)を皮切りに、各国の時間帯
に合わせて世界160カ国に計5回、奈良医大めまい
センターの取り組み”Thorough Examinations for
Causes of Dizziness”が放映されます。ミス・ユニ

バース日本代表の栄養指導を担当されたエリカ・アンギャル氏のMCも必見。

NHKワールド: Medical Frontiersの視聴方法は、お手持のパソコンやスマホからアクセスし、Watch Liveボタ
ン(黒赤)で決められた5つの時間帯に視聴できます。

<https://www3.nhk.or.jp/.../medicalfront.../20230529/2050142/>

なお、NHK BSテレビでは7月1日(土)・8日(土)に放送・再放送の予定。NHKオンデマンド(登録不要)では放
映後1年間いつでも無料で視聴可。

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2050142/>

昨今、医学部における英語での医学教育の重要性が指摘されています。是非、医大生の皆さんにご活用いた
だければ幸いです。それでは良い週末をお過ごしください。



2023年5月31日



令和5年5月28日曜日、第7回畝火会ゴルフコンペが島ヶ原カントリークラブで完全開催されました。昨年は成績発表、表彰式の無いまま解散という不本意な形での開催でしたので嬉しい限りです。このコンペが三重県島ヶ原で開催されるのは史上初であり、天気も暑過ぎず涼し過ぎず、ユニークなコースを楽しくエンジョイすることができたと思います。

レギュラーの部では圧倒的安定感を誇る山本俊宏先生が清水智之先生に競り勝ち、またまたまた優勝となりました。おめでとうございます。シニアの部では菊岡政久先生、レディースの部で松村八千代先生が優勝しました。

様々な恒例行事も徐々に平常通り行われつつあり、明るい令和5年になりそうで何よりです。



2023年6月2日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜は5
回生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。只今、奈
良県橿原市には線状降水帯の影響で大雨警戒レベ
ル4が出ています。安全のため、早めに集まり早め
に帰宅としました。

今週の総括は真珠腫性中耳炎、鼻中隔湾曲症、病巣扁桃感染症、パセドウ病と、耳鼻咽喉科分野全般を勉強。
めまいクルズスはめまい実習模型「ひでおくん」を使用して、BPPVに対するエプリー法を練習。
ひたすらお元気な班でした。



2023年6月9日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜の昼下がりには5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。一週間経つのがとても早いです。

ポリクリ総括は、鼓室形成術IV型、気管孔前方開大術、甲状腺半葉切除+リンパ節郭清術、副甲状腺腺腫摘出術、それぞれ通常手術に少し工夫を凝らした治療になりましたが、うまくまとめてくれました。めまいクルズスは、めまい実習模型「ひでおくん」を使用して、解説用YouTube通り、うまくBPPVの浮遊耳石置換を実践してくれました。

明日は大阪地方連合会に感覚医学講習会と、現地参加の勉強会が相次いで開催されます。親交、親睦を深めつつ、良い週末をお迎えください。



2023年6月11日



昨日午後、ホテル日航奈良において、第32回奈良県耳鼻咽喉科感覚医学講習会が、現地+web配信によるハイブリッド開催されました。

特別講演1：聖マリアンナ医科大学西部病院・耳鼻咽喉科の瀬尾 徹教授に「前庭誘発筋電位のこれまでの今後の展望」、特別講演2：東邦大学医学部佐倉病院・耳鼻咽喉科の鈴木光也前教授に「空間認知における視覚・前庭覚・聴覚の相互作用」をご講演いただきました。

いずれも、高齢社会の前庭機能、空間認知機能の低下により生じる問題を見据えたご研究であり、対策を考える上で重要な内容のご講演でした。有意義なお時間をありがとうございました。



2023年6月15日



嶋 緑倫医学部長からクラブ顧問を引き継がせていただいた社会医学研究会、通称社医研。疾病により学業を長期離脱せざるを得ない小児やその親御さんに寄り添うボランティアが、その活動の中心を成します。手話技術の習得にも熱心です。

本日はその3年振りの新入生歓迎会に、新入生10名を含む30名近くの部員が集まってくれました。当研究会のボランティア活動は再び活気を帯びつつあり、その活動をサポートできれば幸いです。



2023年6月16日



2023年6月15日-16日にかけて、大阪大学 猪原秀典会長の下、第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会が「頭頸部癌新世紀」をテーマとして大阪国際会議場で開催されました。

奈良医大からも複数演題を発表させていただき、有意義なディスカッションをすることができました。新しい知見を吸収し今後の診療・研究に活かしていきたいと思っております。



2023年6月16日



2023年6月15日-17日にかけて、信州大学 伊藤研一会長の下、第35回日本内分泌外科学会総会が長野県松本市で開催されました。

奈良医大、近大奈良、ベルランドから医局員が参加し、発表を行いました。



2023年6月16日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。金曜午後は恒例の5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズス。前頭洞嚢胞、舌癌、異所性甲状腺、副甲状腺腫瘍に対する外科治療をまとめてもらいました。当医大生に占める女性の割合は年々上昇傾向にあります。さらに頭頸部の外科治療に興味を持つ女性の割合も上昇傾向にあると感じます。当科選りすぐりの頭頸部外科メンバーは、昨日今日と大阪国際会議場で開催中の日本頭頸部癌学会に参加中ですが、引き続き頭頸部外科の魅力を伝えていきたいと思えます。それでは良い週末をお過ごしください。



2023年6月22日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。耳鼻咽喉科臨床学会出席のため明日金曜午後から東京入りしますので、本日木曜午後に5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスとなりました。真珠腫性中耳炎に対する鼓室形成術、両側高度難聴に対する人工内耳植込術、睡眠時無呼吸に対するアデノイド切除術、頸部郭清を伴う甲状腺切除術に関して、まとめてもらいました。

耳鼻咽喉科臨床学会・運営委員会のお計らいで、2025年に当科が奈良市にて主催させていただくことになりました。その視察も兼ねて明日から東京入りします。2023年の東京医大、2024年の福井大学の内容を参考にさせていただき、実りある学会にしたいと思います。

それでは良い週末をお過ごしください。



2023年6月25日

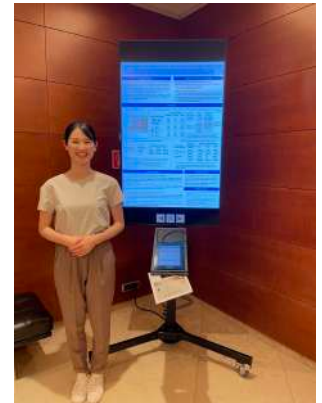


第85回耳鼻咽喉科臨床学会・学術講演会が東京医科大学・塚原清彰会長の下、京王プラザホテル(新宿)で現地開催されました。医局・同門の皆様に厚く御礼申し上げます。

奈良医大からは、近大奈良病院、奈良県総合医療センターを含め多くの演題を発表させていただきました。今回より懇親会も再開され非常に盛り上がった学会となりました。



2023年6月27日



6月21日から6月25日の期間にローマで開催された7th world congress of IFHNOSに参加して来ました。当科からは上村裕和、足立詩織、田中瑛久、石田千恵の4名が参加致しました。前回の6th world congress of IFHNOS（アルゼンチン）が開催されたのは2018年でコロナ禍にあったことで一年遅れての開催となりました。諸外国の頭頸部癌診療に触れ、対面で意見を交わすことができるこのような国際学会は当科の若い医師達に大変良い刺激となったものと感じています。

日本人研究者のセッションには多くの他国の先生が聴講に来られ、大きな関心が寄せられていることが大変印象的でした。



「New treatment strategies for head and neck cancers made in Japan」

Presidents: Hakan Korkmaz, Richard Wong Moderators: Ryuichi Hayashi, Ken-ichi Nibu

- TOVS for laryngeal and pharyngeal cancer : Akihiro Shiotani
- ELPS for early pharyngeal cancer : Ichiro Tateya
- RADPLAT for maxillary cancer : Akihiro Homma
- TPF-RT for ear cancer : Hiroataka Shinomiya
- Postoperative weekly CDDP-CRT : Naomi Kiyota
- Chemotherapy for AR+/HER2+ parotid cancer : Yuichiro Tada

GALA dinnerの席では、当科の頭頸部外科医にたくさんのお話を頂けましたこと感謝申し上げます。次回は3年後の2026年にオーストラリア ブリスベンで開始されます。また、各国の先生と対面で情報交換できるのを楽しみしております。



2023年6月29日



— 耳鼻、咽喉と
頭頸部
そして、

“浪漫”—

奈良県立医科大学
耳鼻咽喉・頭頸部外科

医局説明会 2023年7月19日(Wed) 18:00～

場所 耳鼻咽喉・頭頸部外科医局

お問合せ Mail: orl@naramed-u.ac.jp (担当 山下)

Tel(医局): 0744-29-8887(内線 3435)

懇親会がありますので奮ってご参加ください!!

本年度の医局説明会を2023年7月19日(水) 18:00から耳鼻咽喉・頭頸部外科医局において開催させていただきます。

対象は初期研修医・医学生となっておりますが、後期研修医や奈良医大耳鼻咽喉科と一緒に働きたいと考えている先生方も大歓迎です。参加希望の方は耳鼻科医局(内線: 3435)にご連絡いただければ幸いです。なお、遠方の方でwebでの参加をご希望される方は前日までに耳鼻咽喉科医局までご連絡お願いいたします。(担当: 山下)

2023年6月30日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後はいよいよこの学年最終班の1週ポリクリ総括+めまいクルズス。今週は鼻腔腫瘍、中咽頭表在K、腺腫様甲状腺腫、バセドウ病の病態-診断-治療とくに外科治療をしっかりとめてもらいました。『頭頸部外科月間』にちなんだような腫瘍weekで締めくくることができました。

今年から奈良医大めまいセンターは『めまい難聴センター』と名称を新たにして邁進しております。西村忠己副センター長の難聴に関する記事『耳が遠いと感じたら』が朝日新聞Reライフ.netに掲載されました。是非ご一読ください。

<https://www.asahi.com/relife/article/14933149>

本日で今年のハーフタイムが終了しますが、皆様にはどのようなハーフタイムでしたでしょうか。個人的には体調が優れず前半戦は遅々としておりましたが、明日からの後半戦は倍速で頑張れそうです。良い週末をお過ごしください。



2023年7月8日



令和5年7月7日、第5回軟骨伝導聴覚研究会が慶應義塾大学附属病院にて開催されました。

奈良県立医科大学からは西村病院教授、岡安助教、宮崎ST、大塚診療助教が、そして共同研究している大阪大学からは下倉准教授が参加し

「軟骨伝導補聴器と骨導デバイスの効果の比較」

「外耳道閉鎖症の手術適応と軟骨伝導補聴器装用の関係について」

「軟骨伝導補聴器の固定に成形テープを使用した時の効果」

「軟骨伝導補聴器に対する公的支援についての全国アンケート（身体障害者手帳を有する両側外耳道閉鎖症例について）」

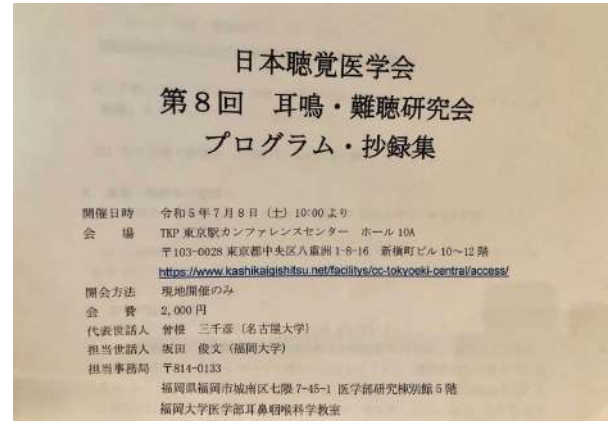
「騒音を除去し音声のみを通過させる軟骨伝導アクティブノイズコントロールの開発」

の計5演題を発表いたしました。

全国の軟骨伝導補聴器取扱施設からも多数ご参加頂き、たいへん盛況な研究会となりました。お忙しい中ご協力頂いた先生方、運営に携わって頂いたスタッフの皆さま方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



2023年7月8日



令和5年7月8日、第8回耳鳴・難聴研究会が東京駅カンファレンスセンターにて行われました。
当科からは山下学内講師が、『耳鳴患者における連続自記オージオメトリー』について報告いたしました。
来年、第9回の研究会は奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科が担当させていただきます。多くの演題登録をお待ちしております。



2023年7月15日



今週7月13日木曜-14日金曜、札幌医科大学から實川純人先生がめまいセンター見学に来てくれました。めまい外来における最短距離で結論を導く問診と検査、それでも原因不明になる症例の検査入院への組手順、実際のめまい検査と前庭リハビリの実施風景、選択ポリクリ学生による担当症例のプレゼン、さらにメニエール病に対する内リンパ嚢開放術のすべてを経験していただきました。安易に原因不明にしないことと、最終手段として外科技術を持つことをmottoに取り組んでおります。お気軽に見学希望をお声掛けください。

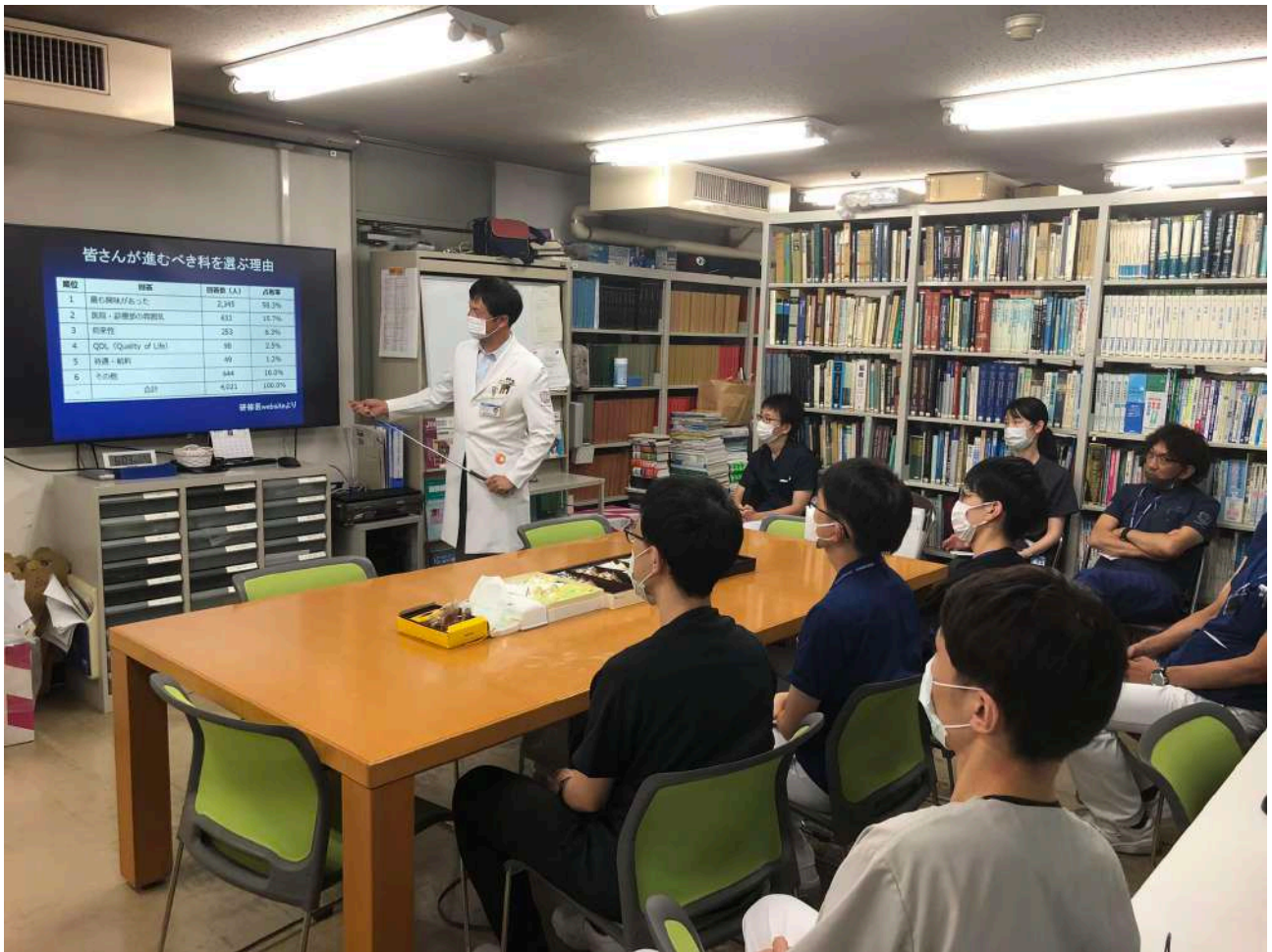
2023年7月15日



第39回奈良県頭頸部腫瘍研究会	
日時：令和5年7月15日(土)16時30分～19時15分 場所：THE KASPIARA 3階「大塚」	
<small>注：奈良県頭頸部腫瘍研究会/NSO株式会社、WEB配信(個人視聴)の申し込み受付が終了です。NSOの配信には視聴料がかかります。 <small>※ 聴講料なし、上級聴講料(聴講料)は別途申し込みが必要です。本研究会の収益は、本研究会の活動に充てられます。</small> <small>※ 本研究会の活動は、奈良県医師会(奈良県医師会)の協賛を受けております。</small> </small>	
<small>注】(16:35～16:55) 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 上村 昭昭 先生 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 木村 健治 先生 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 中島 寅彦 先生 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 山田 浩一 先生 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 山田 浩一 先生 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 山田 浩一 先生 他に継続してご参加ください。 </small>	<small>【一般講演】(17:40～18:10) 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 上村 昭 『当科におけるキイトルーダの治療成績』 『領域講習』 【特別講演】(18:10～18:30) 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 上村 昭 『外科医の立場で考えるIO時代の頭頸部癌薬物治療』 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 中島 寅彦 『聴講料なし』(19:10～19:30) 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 上村 昭 先生 </small>

令和5年7月15日、第39回奈良県頭頸部腫瘍研究会が開催されました。
 奈良県立医科大学からは上村病院教授、木村助教が参加し、
 「令和4年奈良県頭頸部癌患者受診実態」
 「当科におけるキイトルーダの治療成績」の計2演題を発表いたしました
 また、九州医療センターより中島寅彦先生にお越しいただき、
 「外科医の立場で考えるIO時代の頭頸部癌薬物治療」についてご講演いただきました。
 本研究会も今回で39回を数え、最新の知見を交え、議論も活発なものとなりました。
 引き続き、頭頸部癌治療の開発と最新治療への取り組みを進めてまいります。

2023年7月19日



本日、奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座の医局説明会を開催させていただきました。
今後も随時研修、見学、入局相談等を行わせていただきます。お気軽にお問い合わせいただければ幸いです。

(担当:山下)



2023年7月23日

第1回 南阪奈耳鼻咽喉科研究会

謹啓 時下、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、この度第1回目を下記概要で開催させていただくこととなりました。
諸事、ご多忙とは存じますがご臨席賜りますよう宜しくお願い申し上げます。謹白

日時 令和5年7月22日（土） 16:50-18:45

場所 スイスホテル南海大阪 7階 芙蓉

〒542-0076 大阪府中央区難波5-1-60 TEL 06(6646)1111



奈良医大、近畿大学、近大奈良、岸和田市民の合同で、栄えある第1回『南阪奈耳鼻咽喉科研究会』が、スイスホテル南海大阪にて現地開催されました。

一般講演の共通トピックスは『診断と治療に苦慮した症例』とし、特別講演は和歌山県立医科大学の保富宗城教授にお越しいただき『感覚免疫より考える感染症治療』についてご講演いただきました。



2023年7月26日

睡眠障害のこれからを考える会

開会の辞
【19:00~19:10】
奈良県立医科大学 呼吸器内科学講座
教授 室 繁郎 先生

講演①
【19:10~19:40】
座長 奈良県立医科大学 医学部看護学科 臨床病態医学
教授 山内 基雄 先生

**OSASに対する新たな手術治療
～舌下神経刺激装置植込術～**

演者 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
病院教授 上村 裕和 先生

講演②
【19:40~20:20】
座長 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
教授 北原 糺 先生

**アフターコロナ・新たなる睡眠医療に挑む
ー不眠治療を含めてー**

演者 めいほう睡眠めまいクリニック
院長 中山 明峰 先生

日時: 2023年7月26日(水)19:00~20:20
形式: WEB配信(ZOOM配信)
※視聴方法は裏面をご参照ください。



めいほう睡眠めまいクリニックから中山明峰先生をお招きして睡眠医療の特別講演を頂戴しつつ、当医大呼吸器内科の山内基雄先生、耳鼻咽喉・頭頸部外科の上村裕和先生から舌下神経刺激装置植込術の現状について解説いただきました。

睡眠医療は多くの科にまたがる分野として、また耳鼻咽喉科にとってプレゼンスを高める分野として重要ですので、今後さらに注力していきたいと考えます。



2023年8月2日



今年も臨床解剖実習が8月2日に解剖実習室で行われました。今回は奈良県総合医療センターの成尾先生や研修医を含め多くの先生方に参加いただきました。耳チームと鼻チームに別れて実習を行い、耳は西村先生病院教授と成尾先生の、鼻は山下講師の直接指導を受けながら、普段は見ることがない深部や細部の解剖に触れることができ、貴重な実習となりました。実習期間は残り一週間となりましたが、まだまだ続きます。実施に際しまして、第一解剖学、第二解剖学、脳神経外科学教室の先生方には大変お世話になり、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



2023年8月3日

『鼻の日』講演会

▽時間 午後2時30分～4時30分
▽場所 奈良県医師会館 3階 講堂
▽講演 「口のがん・咽喉(のど)のがんの基礎知識 ～頭頸部外科に相談しよう～」

奈良県立医科大学
耳鼻咽喉・頭頸部外科学
病院教授 上村 裕和 先生

●無料相談 鼻の病気に関する相談(講演会終了後)



今年の奈良県医師会・鼻の日講演から、日耳鼻・頭頸部外科月間の活動に合わせて、上村裕和病院教授による『口のがん・咽喉のがんの基礎知識～そうだ！頭頸部外科に相談しよう～』を講演させていただくことになりました。

講演後は鼻の病気に限らず、耳鼻科すべての病気に関して、県民の無料相談会が実施されました。



2023年8月28日

126—990

2023

原 著

望月 隆一
牟田 弘*
坂本 平守**
北原 糺***

あべのハルカス坂本耳鼻咽喉科
大阪ボイスセンター
*牟田耳鼻咽喉科医院
**坂本クリニック
***奈良県立医科大学
耳鼻咽喉・頭頸部外科

日耳鼻 126: 990-997, 2023

大阪ボイスセンターにおける
喉頭微細手術2,313件の統計

大阪ボイスセンターにおける、2004～2021年の18年間の喉頭微細手術2,313件について報告する。性比は、女性1,230件(53.3%)、男性1,083件(46.8%)と女性にやや多く、最年少は11歳、最高齢は89歳、平均年齢は47.5歳であった。主な疾患の内訳は、声帯ポリープ1,074件、声帯嚢胞244件、声帯麻痺211件、声帯結節190件、ポリープ様声帯164件、喉頭乳頭腫156件であり、疾患別の性比や年齢分布をはじめ、職業性や再手術率などについて報告する。これまでの諸家の報告と比較し検討した結果、特に女性に多いという特徴があり、悪性腫瘍の割合が低く、声帯嚢胞が多い傾向にあった。その要因として、対象となる施設が地域の中核病院や大学病院など、それぞれの施設の特徴により傾向に差が表れたと考えられた。今回の結果を踏まえた上で、各疾患の喉頭微細手術における手術適応などについても考察を加えた。

キーワード：喉頭微細手術、音声外科、臨床統計

当科で音声を勉強したい先生には、当科非常勤講師・望月隆一先生にお願いしてご指導いただいています。彼は大阪ボイスセンターを標榜され、これまでに手掛けた音声外科手術は2000件を優に超えます。このたび、そのライフワークが日耳鼻会報誌に掲載されました。牟田弘先生の流れを汲む大変貴重な症例の数々。是非、ご一読ください。

2023年9月2日



本日9月2日土曜、奈良県コンベンションセンターにて奈良県耳鼻咽喉科漢方セミナーが開催されました。昨年と同様、新型コロナへの対応からハイブリット開催となりましたが、会場前の特設せんとくんトランポリンは家族で賑わっていました。

一般講演は奈良医大の岡安 唯講師に「耳鼻咽喉・頭頸部外科領域における加味帰脾湯の活用」、特別講演は北里大学の山下 拓教授に「がんと漢方～半夏瀉心湯による化学放射線治療に伴う口内炎対策～」をご講演いただきました。

漢方伝来の地である奈良県において、今後も基礎と臨床の両面から漢方治療のエビデンスを深めていくことができれば幸いです。来年以降、通常形式で開催できることを期待します。



2023年9月9日

第7回奈良-大阪耳鼻咽喉科研究会【ハイブリッド開催】
(旧称：奈良-大阪めまい研究会)

謹啓 先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
この度、下記日程にて開催させて頂く運びとなりました。
ご多用中とは存じますが、ご出席賜りますようよろしくお願い申し上げます。

謹白

【日時】 令和 5年 9月 9日(土) 18:00~20:10

【会場】 シェラトン都ホテル大阪 3F 三笠の間
大阪市天王寺区上本町6-1-55

【URL】 <https://zoom.us/>

ID: 912 1304 0633 パスコード: 993325



情報提供 18:00~18:10

選択的P2X3受容体拮抗薬/咳嗽治療薬 リフヌア錠45mgについて 杏林製薬㈱

特別講演 I 18:10 ~ 19:10

座長：大阪回生病院 耳鼻咽喉科 頭頸部外科 めまいセンター 藤田 信哉 先生

「山梨大学におけるアレルギー疾患への取り組み」

山梨大学大学院総合研究部医学域 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座
教授 櫻井 大樹 先生

特別講演 II【領域講習】 19:10 ~ 20:10

座長：大阪公立大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉病態学 教授 角南 貴司子 先生

「精神科医が耳なり・めまいに対応する時
～認知行動療法を含めて～」

大阪公立大学大学院医学研究科 神経精神医学 教授 井上 幸紀 先生



今年の第7回奈良-大阪耳鼻咽喉科研究会(旧：奈良-大阪めまい研究会)は、例年通り9月9日土曜にシェラトン都ホテル上本町で、開催形式は慎重にハイブリッド開催となりました。

今回は大阪公立大学の角南貴司子教授にご担当いただき、山梨大学・櫻井大樹教授に「山梨大学におけるアレルギー疾患への取り組み」、大阪公立大学・井上幸紀教授に「精神科が耳なり・めまいに対応する時」をご講演いただきました。

来年は大阪回生病院めまいセンターの藤田信哉センター長のご担当で、「AI導入でめまい診療がどこまで楽になるか」など未来耳鼻咽喉科のデザインに焦点を当て、現地開催を目指したいと思います。

2023年9月14日

メディアお供りセッション

睡眠時無呼吸に新治療法・舌下神経電気刺激

MT MEDICAL TRIBUNE

睡眠時に上気道が閉塞して無呼吸や低呼吸を呈する器質性睡眠時無呼吸(OSA)。国内の患者数は2,200万人、うち治療が必要なのは約940万例に上ると推定されるが、持続陽圧呼吸(CPAP)療法を受ける患者は約73万人にとどまり、未治療例への対応が課題となっている。さらにCPAP療法の持続が困難な患者も少なくなく、新たな選択肢として舌下神経電気刺激療法(HNS)に注目が集まっている。HNS装置の販売元であるInspireが9月7日に東京都で開催したメディアセミナーで、奈良県立医科大学臨床睡眠学講座教授の山内基雄氏は、HNSの術前術後管理のポイントについて解説した(関連記事「睡眠時無呼吸に舌下神経刺激が有効」)。



山内 基雄氏

CPAP継続困難例に福音か

OSAは、脳卒中や心不全などのリスクを上昇させるとの報告がされているが、治療選択率は少ない。標準治療であるCPAP療法は装置の運搬さや不快感からアドヒアランス良好率が17~54%と低く、治療継続困難例への対応策の確立が望まれている。

HNS装置は挿入込み式の小型デバイスシステムで、就寝前に操作ボタンを押して作動させる。夜間の呼吸に合わせて舌下神経に電気刺激を与え、舌根を持ち上げて気道を広げることで、睡眠時の無呼吸を防ぐ(図)。

図. 舌下神経電気刺激装置が睡眠時無呼吸を防ぐ仕組み



(Inspireより提供)

HNSが奏効する患者を見極める

HNSの適応は、CPAP療法の継続が困難な中等症~重症のOSA患者。CPAP療法に比べて良好なアドヒアランスが報告されているが、山内氏は「CPAPは就寝前に就寝してしまう患者が多いが、HNSは患者の家族でもデバイスを操作できるため、未就寝での就寝によるアドヒアランス低下を防ぎやすい」とその理由を考察した。

HNSを導入する際は奏効する患者を見極めるため、まず術前に客観的適応基準(①18歳以上、②BMIが30未満、③無呼吸低呼吸指数(AHI)が20以上のOSA、④扁桃肥大などの解剖学的異常が見られない、⑤薬物睡眠下内視鏡検査(DISE)で不適応と診断されていない、⑥中枢性無呼吸の割合が25%以下)を確認。医療機器併用状況、既往歴や合併症の確認、終夜睡眠ポリグラフ検査の精読と評価などを行った上で、挿入込み術を施行する。

HNS術後、アクティベーションから長期管理まで

挿入込み4~6週後に外来で舌に違和感や痺れが残存していないかどうかを確認し、デバイスのアクティベーションを行う。刺激を知覚する値(sensation level)から、舌が下の歯に当たるまで移動する値(functional level)へと電圧を上げ、患者自身が調整(0.1V刻みで10段階)できるように設定する。

アクティベーションの4~6週後には、患者が治療に慣れたことが確認できれば刺激強度を調整する目的で終夜睡眠ポリグラフ検査を実施。OSAの改善度と呼吸同時刺激の確認、至適刺激強度の探索、過剰刺激強度の排除を行う。

有害事象としては、感染、刺激による不快感、切開部や盛面の不快感、舌擦過傷、一過性舌下神経麻痺などが報告されている。

HNSの長期管理について、山内氏は「CPAP療法のように受診間隔は最長3カ月という診療報酬上の規定はないが、患者には3~6カ月ごとの受診を促し、体重の増減などを確認した方がよい」と指摘した。なお、セミナーでは同氏が担当している患者とその家族が登場し「HNSに変わったことで、CPAPの不快感や心理的負担から解放された」と治療効果の実感を述べた。

(股部美味)

このたび、奈良医大睡眠医療チームの活動がMedical Tribuneに掲載されました。呼吸器内科、麻酔科、耳鼻咽喉科が連携して、睡眠時無呼吸の新規治療法である舌下神経刺激装置植込術に取り組んでいます。一昨年に保険収載されてから、奈良医大での実施は次例で3例目。徐々に普及、浸透して来たように感じています。



2023年9月29日



昨日、大阪voice centerの望月隆一先生に奈良医大までおこしいただき、甲状披裂筋切除術の執刀を行っていただきました。音声外科は耳鼻咽喉科でも重要な領域ではありますが、奈良には専門とする医師が少なく、日本のトップランナーの望月先生の手術を多くの医局員が見学させていただけたという非常に貴重な時間をすごさせていただきました。



2023年10月9日



明日からの約1ヶ月、韓国Gyeongsang National UniversityからSomi Ryu先生が奈良医大の耳鼻咽喉科で研修します。今晚のWelcome Dinnerでは大和牛を堪能していただきました。

真ん中3名、左から頭頸部外科Prof. Jung Je Park、耳科・神経耳科Prof. Seong-Ki Ahn、Dr. Somi Ryuです。



2023年10月13日







2023年10月11日～13日に千葉県幕張メッセ国際会議場で第68回日本聴覚医学会総会・学術講演会が開催されています。

現地開催のみで、東京湾が遠くまで見渡せる秋晴れのもと、学会が行われました。

当科からは西村忠己 病院教授、岡安唯 講師、森本千裕 助教、大塚進太郎 診療助教、宮崎優里 言語聴覚士が、関連病院の高井病院耳鼻咽喉科からは覚道真理子 医師が、大阪大学基礎工学部からは下倉良太 准教授が演題を発表しています。また補聴セッション座長を細井裕司 学長がつとめました。

今回も軟骨伝導に関連した多くの演題があり、関心度の高さを感じています。

本学会の開催にご尽力頂きました、東邦大学耳鼻咽喉科学講座の鈴木光也教授初め関係者の皆さま、ありがとうございました！

2023年10月16日



韓国から当科に留学中のSomi Ryu先生には耳鼻咽喉科のすべての分野を経験していただく予定です。当科めまいセンターでは初診患者対応のコツを伝授します。

まずは疾患統計を頭に入れ、問診でめまいが自発性か誘発性か嗅ぎ分けるのが生命線。基本的に、何時間続くめまいが月何回あったと言えないめまいは自発性ではなく、数年前からずっとフワフワしているというめまいは誘発性です。

めまい診療はシンプルに考えることができればとても楽です。難しく考える先生が難しく考える先生に教えようとするとかオスです。

国内の先生方も是非、当科めまいセンター見学にお運びください。めまい診療を最低限こなしたいクリニックの先生から深掘りしたいアカデミア志望の先生まで、welcomeです。



2023年10月20日



公益財団法人
国際耳鼻咽喉科学振興会
Society for Promotion of International Oto-Rhino-Laryngology (SPIO)



小児耳 2021; 42 (3): 291-296

原著

20歳以下の症例での軟骨伝導補聴器の フィッティング結果と公的支援

西村 忠己¹⁾, 細井 裕司²⁾, 森本 千裕¹⁾, 北原 紘¹⁾

1) 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科

2) 奈良県立医科大学 MBT 研究所

軟骨伝導補聴器は、従来の補聴器で対応が難しい外耳道閉鎖症などの症例で効果が期待され、2017年の発売以降普及が進んでいる。一方その導入に当たっては装用者の経済的な負担を軽減する公的な支援が望まれる。軟骨伝導補聴器に対する公的支援の現状について当院で軟骨伝導補聴器のフィッティングを行った20歳以下の66症例で調査した。両側性の難聴が27例で、うち16例が身体障害者に該当した。それらの例ではほぼ全例が特例補装具として支給を受けていた。一方身体障害者に該当しない例では半数弱が軽中等度難聴児に対する助成制度を利用し差額自己負担による購入が可能であった。片側性の難聴は39例で、大多数が全額自己負担で購入していた。公的支援を受けることができたかどうかは居住地による差を認めた。また公的支援が受けられないことで購入を断念した症例も認めた。公的支援の拡大や居住地による差の是正が必要であると考えられた。

キーワード：軟骨伝導補聴器, 身体障害者, 特例補装具, 公的支援, 外耳道閉鎖症

このたび公益財団法人国際耳鼻咽喉科学振興会(SPIO)より、2023(令和5)年度・第12回コストコSPIO研究助成金をお受けできることになりました。当大学・細井裕司学長が現役時代に開発した軟骨伝導補聴器を、西村忠己病院教授により社会還元すべく進めている活動状況が報告され、それが認められたものと認識しております。引き続き良い結果を出せるよう注力して参ります。

関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



2023年10月21日



耳鼻咽喉科分野の中で摂食・嚥下は、歯科・口腔外科との境界領域でもあり、非常に重要な分野です。そこで当科では摂食・嚥下診療の専門性を高めるため、奈良総合・秋岡宏志先生が聖隷佐倉・津田豪太先生のところで数ヶ月間、ご指導いただきました。

この短期留学で薫陶を受けた秋岡先生は、早速自施設に多職種・嚥下カンファレンスを立ち上げ頑張っています。

一同、当科に摂食・嚥下診療を必ずや確立させることをお約束しつつ、津田先生のご冥福をお祈り申し上げます。



2023年10月21日

特別講演 (17:00~18:00) <領域講習>
座長 奈良県立医科大学 北原 紘

**「アレルギー疾患と頭頸部外科疾患
-私の治療方針-」**

岐阜大学大学院医学系研究科
耳鼻咽喉科学分野

教授 小川 武則 先生

閉会の辞 奈良県耳鼻咽喉科医会 会長 玉木 克彦

◎特別講演<領域講習>の途中退席はお控えください。

共催：日耳鼻奈良県地方部会 奈良県医師会耳鼻咽喉科部会
奈良県耳鼻咽喉科医会 田辺三菱製薬株式会社



第96回奈良耳鼻咽喉科講習会が奈良県コンベンションセンターで現地開催で行われました。一般演題では、奈良県総合医療センターの阪上剛先生が内視鏡下鼻副鼻腔手術のひと工夫についての発表を行いました。特別講習では岐阜大学耳鼻咽喉科の小川武則教授に「アレルギー疾患と頭頸部外科疾患-私の治療方針-」と題しまして、実臨床を踏まえての手術、化学療法の戦略について非常にわかりやすく御解説頂きました。ぜひ明日からの診療に役立てていきたいと思えます。



2023年10月27日



10月25日～27日の3日間で新潟県の朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）にて第82回日本めまい平衡医学会総会学術大会が開催されました。

当科及び関連病院からはランチョンセミナーで北原紘教授、シンポジウムⅠで和田佳郎特任講師、モーニングセミナーで松村八千代医員、教育セミナーでベルランド総合病院めまい難聴センターの今井貴夫センター長の講演があり、一般演題発表では12演題と多くの演題を発表しました。

当科の特徴の一つであるめまい診療について様々な内容の新たな知見を公表しました。

患者さんの治療を行う上で最新の知見を得つつ、より良い医療を提供できるよう教室として精進していこうと思います。

新潟は3日間秋らしい心地の良い晴天で充実した学会となりました。

ご開催くださいました新潟大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の堀井新教授はじめ、スタッフの皆様に感謝申し上げます。



2023年10月29日

奈良県耳鼻咽喉・頭頸部外科セミナー

日時：2023年10月28日（金） 15:00～17:10

15:00～15:05 開会の辞 奈良県耳鼻咽喉科医会 会長 **玉木 克彦** 先生

15:05～16:05 特別講演 1

座長 天理よろづ相談所病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長 **平海 晴一** 先生

当院の鼻腔悪性腫瘍の治療方針に関して

演者 東京慈恵医科大学 耳鼻咽喉科学教室 講師 **大村 和弘** 先生

16:05～17:05 特別講演2

座長 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 教授 **北原 紘** 先生

How to learn and improve your skills in middle ear surgery

演者 大阪市立総合医療センター 耳鼻いんこう科・頭頸部外科 部長 **三代 康雄** 先生

17:05～17:10 閉会の辞 奈良県耳鼻咽喉科医会 会長 **玉木 克彦** 先生

主催：日耳鼻奈良県地方部会 / 奈良県耳鼻咽喉科医会 / 奈良県医師会耳鼻咽喉科部会 / 大鵬薬品工業株式会社



奈良県耳鼻咽喉・頭頸部外科セミナーは、昨年に引き続き座長と講師のみ現地参加による、奈良県コンベンションセンターの一室から完全リモート配信となりました。

特別講演には、鼻・頭蓋底外科手術の東京慈恵会医科大学・大村和弘先生、耳・側頭骨外科手術の大阪市立総合医療センター・三代康雄先生のお二方をお招きしました。

今回は頭蓋底手術と側頭骨手術、それぞれの手術の考え方、手技に関して、動画をふんだんに取り入れた内容であり、特にこれから研鑽を積もうとされている若い先生方にとって興味深いご講演になったと思います。



2023年10月30日



本日、Gyeongsang National Universityから来られていたSomi Ryu先生の奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科での研修が修了となりました。明日、帰国されますが、今後の韓国での、そして、国際的なご活躍をお祈り申し上げます。

また、来年3月ソウルにて開催される19th Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgeryで再会できるのを楽しみにしております。



2023年11月1日

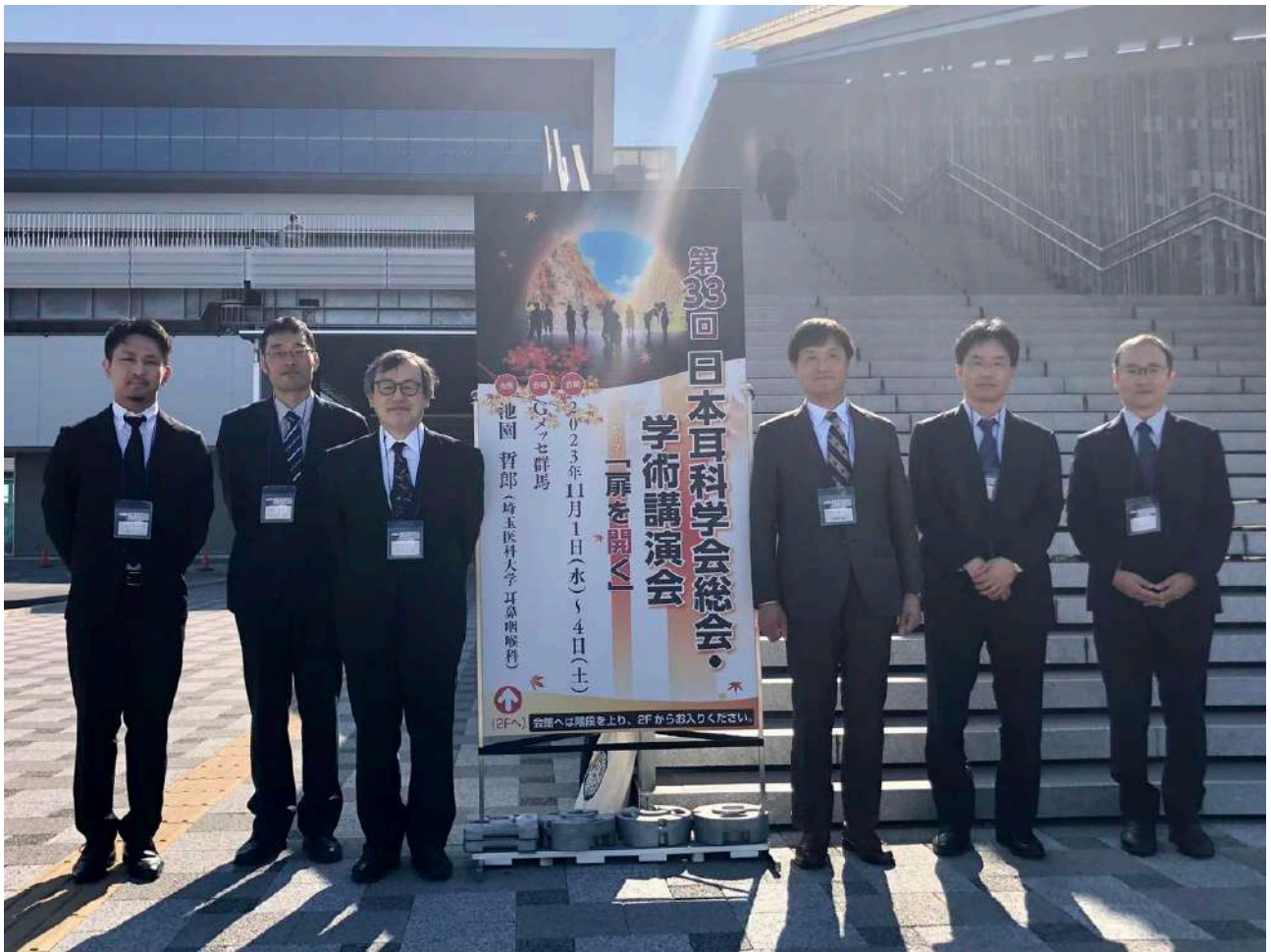


今年度の専攻医の先生方には3ヶ月間、近畿大学という異なる環境に身を置いて研修してもらっています。5月-7月に景山先生、8月-10月に石田先生、そして今月11月から吉田先生が行って来ます。各々の施設のやり方の良いところ取りして成長していってもらえたら嬉しく思います。

安松先生、山中先生をはじめ、大変お世話になっております。ありがとうございます。



2023年11月4日



2023/11/01-11/04まで、埼玉医科大学主催の日本耳科学会が、群馬県Gメッセで開催されています。

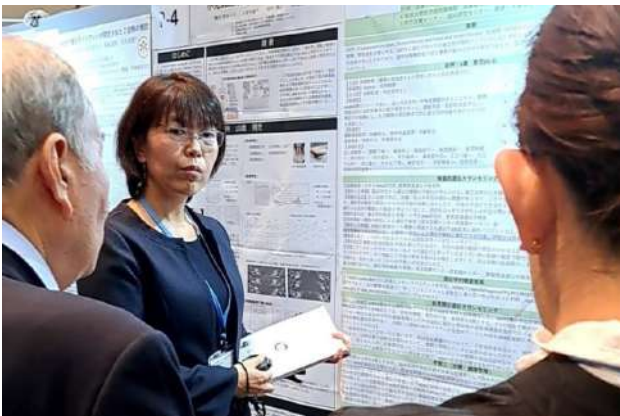
海外からはデンマーク・コペンハーゲン大学からPer Caye Thomasen教授、カナダ・モントリオール大学からIssam Saliba教授が来日され、聴神経腫瘍と人工内耳、メニエール病に対する内リンパ嚢クリッピングについてご講演いただきました。当科関連では、奈良医大、奈良総合、ベルランドから多数の演題発表をさせていただきました。

来年から日本耳科学会認定医制度が発足します。現行の耳科手術指導医を目指す前段階として、自身の耳科学知識と技術の向上、ひいては県民市民の耳科診療における安心安全のため、是非目標としてみてください。

来年の名古屋大学、再来年の九州大学、次いで2026年10月にはいよいよ当科が本学会を担当させていただくことになりました。併せて、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



2023年11月10日



2023年11月9日（木）～10日（金）の日程で、『第18回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会』が国立成育医療研究センター 耳鼻咽喉科主幹のもと、大分県別府市のB-CON PLAZAにて開催されています。別府はあちこちで湯けむりが立ち昇り、大変風情のある街並です。

当科から小児耳鼻科を担当している森本助教と大塚診療助教が発表とポスター座長をつとめさせていただきました。我々の発表に興味をお持ち頂いた先生方、ありがとうございました。更に改良し、小児難聴の現場に還元したいと考えています。

会長をおつとめの成育医療センターの守本倫子先生ともお忙しい中写真を撮って頂きました！

第19回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会は、2024年7月11日～12日の日程で三重大学耳鼻咽喉・頭頸部外科主幹のもと、三重県で開催予定です。

2023年11月15日

耳が遠い……考えられる原因や病気は？

そもそも聴力は年齢とともに悪化するのが一般的（老人性難聴）
ただし病気の可能性も……考えられる主な疾患

01 中耳炎
中耳で感染や炎症が起る病気



02 突発性難聴
ある日突然、片側の耳が聞こえなくなる病気



03 聴神経腫瘍
耳から脳に伸びる神経（聴神経）に腫瘍ができる病気



耳が遠いのを放っておくと、日常生活に支障が出たり、認知症になりやすくなったりする
⇒セルフチェックで難聴の疑いがある場合は、**早めに医師に相談を**

(デザイン：西村忠己)

最近、人の声やテレビの音を聞き取りにくいと感じたことはありませんか。年齢を重ねるとさまざまな病気のリスクが高まりますが、なかでも難聴は避けては通れない問題です。

一方、難聴と言っても、種類、原因はさまざまです。この記事では、耳が遠いと感じたときに知っておきたい基本知識を、耳鼻咽喉科（いんこう）科の専門医が解説します。

<目次>

1. 耳が遠いと感じたら……考えられる原因や病気

- (1) 難聴には三つの種類がある
- (2) 聴力は年齢とともに悪化するのが一般的
- (3) ただし病気の可能性もある。耳が遠いときに考えられる主な疾患

2. 耳が遠いのを放っておくと……難聴がもたらすリスク

- (1) 日常生活で困る場面・危ない場面が増える
- (2) 難聴の原因となっている病気が進行する
- (3) 認知症になりやすくなる

3. 耳が遠いと感じたときにしてほしいセルフチェック

4. 耳が遠いのはどうすれば治る？

- (1) 難聴には治るものと治らないものがある
- (2) 聴覚検査を行うときのポイントとおすすめの購入場所
- (3) 聴覚検査と耳鼻科の違い

5. 耳が遠いと感じているときは耳鼻咽喉科の受診を

キーンと耳鳴りがずっと続く原因と耳鳴りとの向き合い方

■ キーンと耳鳴りがずっと続く原因

01 突発性難聴



02 音響外傷、騒音性難聴



03 聴神経腫瘍



04 加齢(老人)性難聴



05 耳以外の病気



■ 耳鳴りとの向き合い方

① 耳鳴りを理解する ② 音環境を整備する ③ 耳鳴りを恐れない ④ 耳鳴りを意識しすぎない

耳鳴りが気になるときは耳鼻咽喉科の受診を
正しい知識を持ち、上手に付き合っていくことが大切です

(デザイン：西村忠己)

夜静かになると、キーンとした耳鳴りが気になり、なかなか寝付けられないといった経験はないでしょうか。なぜ耳鳴りが鳴るのかわからないと不安になり、ますます症状はひどくなります。この記事では、耳鳴りがどうして起こるのか、どのように対応すればよいのかを解説します。

<目次>

1. キーンと耳鳴りがずっと続く考えられる原因

- (1) 突発性難聴
- (2) 音響外傷、騒音性難聴
- (3) 聴神経腫瘍（ちようしんけいしゅよう）
- (4) 加齢（老人）性難聴
- (5) 耳以外の病気

2. 耳鳴りの治療方法

- (1) 薬物療法
- (2) 音療法
- (3) 耳鳴再訓練療法（TRT）
- (4) 聴覚器の装用
- (5) 心理療法

3. 耳鳴りとの上手な向き合い方

- (1) 耳鳴りを理解する
- (2) 音環境を整備する
- (3) 耳鳴りを恐れない
- (4) 耳鳴りを意識しすぎない

4. キーンと耳鳴りがずっと続くときは耳鼻咽喉科の受診を

奈良医大のめまいセンターは、今年度からめまい難聴センターと名称を少し変え、西村忠己病院教授を副センター長としてお迎えして、充実した診療体制を組んで活動しています。

このたび西村副センター長から、

「難聴」 <https://www.asahi.com/reife/article/14933149>

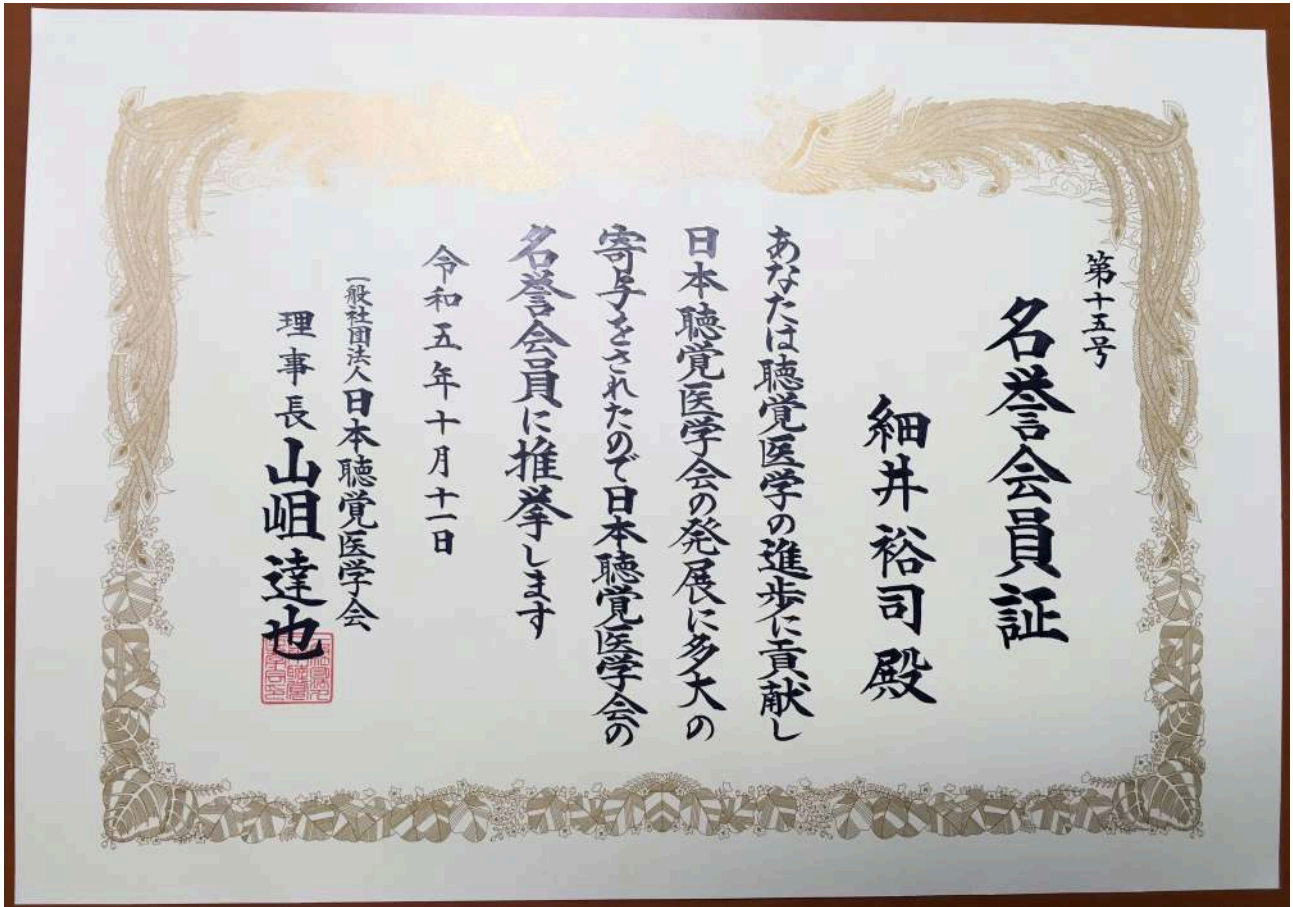
「耳鳴」 <https://www.asahi.com/reife/article/15003673>

に関して、わかりやすく解説してもらいました。

是非、ご参照ください。



2023年11月15日



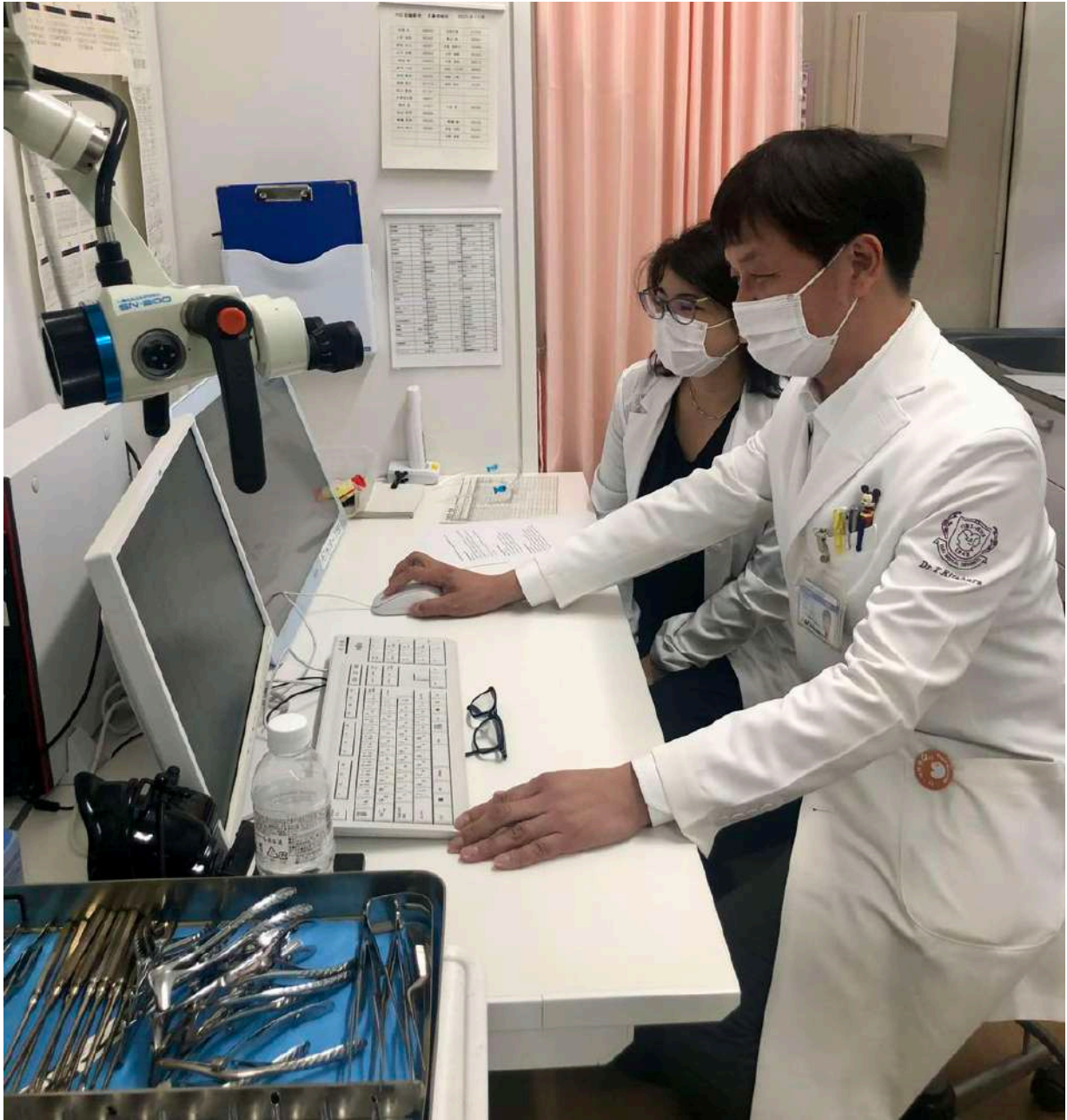
このたび、嬉しいお知らせがございます。2023年（令和5年）の日本聴覚医学会、代議員総会におきまして、細井裕司先生が日本聴覚医学会の名誉会員に推挙、承認されました。

日本聴覚医学会は1956年（昭和31年）に日本オージオロジー学会として東京大学において開催され、その後1988年（昭和63年）に現在の日本聴覚医学会となりました。2023年（令和5年）で第68回を数え、2025年（令和7年）には70周年を迎える歴史ある学会です。

ご存じのように、細井裕司先生の長年のライフワークは難聴と補聴、すなわち聴覚医学であり、その成果は軟骨伝導補聴器、軟骨伝導集音器として既に社会実装、社会貢献されています。



2023年11月17日



メキシコ、モンテレーからの留学生、Kinoa Villanuevaさんは奈良医大にて研修中です。皮膚科、耳鼻科を回り、最後に消化器内科を経験する予定。その後に母国に戻り、進むべき専門分野を決めるとのこと。当科めまいセンターは問診と検査で診断をつけるプロセスと薬物、手術、リハビリを駆使して治療を進めていくプロセスから成り立っています。そこに興味を持ってもらえたら嬉しいです。耳鼻科すべての分野を経験していただく予定です。

2023年11月30日

泉北耳鼻咽喉科セミナー2023

日時：2023年11月30日(木) 18:00~19:10
場所：ベルランド総合病院 地下1階 AIFホール『A・I』
堺市中区東山500-3 Tel:072-234-2001
形式：ハイブリッド形式(現地+Zoom)

プログラム 17:30を目安にお越しいただけますと幸いです

開会の辞(18:00~18:05)
ベルランド総合病院 院長 片岡 亨 先生

【講演(18:05~18:25)】
座長：ベルランド総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長 三上 慎司 先生
『 当科における耳科診療について 』
演者：ベルランド総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 藤田 裕人 先生
『 当科における頭頸部癌診療について 』
演者：ベルランド総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 中島 崇 先生

【特別講演(18:25~19:05)】
座長：奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 北原 礼 先生
『 軟骨伝導補聴器の最新の話題と装用に伴う皮膚炎症・かゆみ対策について 』
演者：奈良県立医科大学附属病院 めまい難聴センター 病院教授 西村 忠己 先生

閉会の辞(19:05~19:10)
ベルランド総合病院 看護部 副部長 中村 充代 先生

大阪府医師会生涯研修単位 申請中【12：地域医療、38：聴覚障害】
当日は、さきやかではございますが、軽食をご用意しております。



本日は大阪府堺市のベルランド総合病院にて「泉北耳鼻咽喉科セミナー2023」が、現地とZOOMによるハイブリッド開催されました。ベルランド総合病院は三上慎司部長、今井貴夫センター長をツートップとする常勤医5名体制で耳鼻咽喉・頭頸部外科すべての分野を網羅して活動しています。

今年の特別講演は、奈良医大めまい難聴センターの病院教授・西村忠己先生に、『軟骨伝導補聴器の最新の話題』についてお話しいただきました。

ベルランドは政令指定都市・堺市の自由な空気に満ち溢れ、耳鼻科全分野の知識と技術を楽しく勉強できる実力派施設です。これから専門医を目指す若い先生の直接就職も大歓迎ですので、ご興味のある先生はベルランド代表もしくは耳鼻咽喉科までお問い合わせください。



2023年12月8日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。今週から新5回生の1週ポリクリが始まり、金曜午後は総括+めまいクルズをさせていただきました。半年振りのポリクリなので週の流れに慣れるまでバタバタしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は「職に寄り添う耳鼻咽喉科」普及活動の一環として、「めまい」を取り上げる方針です。めまい救急トリアージのコツ、耳鼻咽喉科のきめ細やかなめまい診断学、めまいの手術治療という選択肢、という内容で魅力的に進めてまいります。

インフル患者数今季最多を更新、歩く肺炎マイコプラズマが中国・韓国で流行などと囁かれています、引き続き安心・安全に良い週末をお過ごしください。

2023年12月15日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は今年ラス前の新5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズです。小児の先天性疾患である先天性耳瘻孔、先天性真珠腫および成人発症の腫瘍疾患である中咽頭K、甲状腺Kに対して、診断と治療をまとめてもらいました。

毎年12月中頃、財団法人日本漢字能力検定協会から、その年の世相を表す漢字が発表されます。今年は今週火曜日に、「税」という漢字が選ばれました。「防衛増税」「定額減税」「インボイス制度」など、生活に直結する増税/減税の動向が注目された一年でした。悲しいかな物価は上がり続け、国民は「インフレ税」を収め続けた一年になったように思います。

大谷翔平選手が来季からドジャースに移籍するということで、日本時間の今朝、記者会見が開かれました。リオネル・メッシ選手を超え、プロスポーツ史上最高額での契約、しかし年俸の一部を繰り越して後払いにする異例の契約になるそうです。大リーグには超えてはならない選手年俸総額の上限制度があり、超過分に対しては「贅沢税」が課せられるための配慮とのこと。想像を超えたお話ですね。

それでは良い週末をお過ごしください。



2023年12月22日



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日金曜午後は今年最後の新5回生1週ポリクリ総括+めまいクルズスをさせていただきました。

総括は口蓋裂を伴う滲出性中耳炎、自己免疫疾患を伴う弛緩部型真珠腫性中耳炎、神経線維腫症を伴う一側性慢性副鼻腔炎、小児重症睡眠時無呼吸症候群。各人各症例について診断と手術所見をまとめてもらいました。

めまいクルズスも毎学年微修正を重ねまして、この学年で10回目の改定になりました。回を重ねるごとに素晴らしい仕上がりになっていると自画自賛しておりますが、ご興味のある先生は是非見学にご来奈良ください。

先程入った情報によりますと、大谷翔平選手に続き、山本由伸選手もドジャース入り決定。

寒波の影響で寒い週末になりそうですが、ご自愛いただきつつ、良い週末そしてクリスマス、年末年始をお過ごしください。



2023年12月28日



今年最後の医局の公式行事、納会をおこないました。今年は新型コロナウイルス感染症が5類となり、感染状況はひと段落している状態となりましたが、寒くなるにつれて、奈良県でもインフルエンザやアデノウイルス感染症の患者が猛烈な勢いで増えております。医局員も常日頃から、感染対策・健康管理をおこないながら、激動の一年を乗り気ってくれました。北原教授、上村病院教授の訓示をいただいた後に、今年一年の反省と来年の目標などを医局員で共有いたしました。

今年一年ありがとうございました。

令和6年1月3日までは当直体制、1月4日から通常診療の予定です。来年もよろしくお願いいたします。